

リアホナ

家族歴史——
神の計画の中で
自分自身を見つめ直す,
22, 26ページ

ヤングアダルト——
安息日を優先する, 42ページ

友達がつまずいたときに
確固としている, 54ページ



「また、なぜ、
着物のことで
思いわずらうのか。
野の花が
どうして育っているか、
考えて見るがよい。
働きもせず、
紡ぎもしない。
しかし、
あなたがたに言うが、
栄華をきわめた時の
ソロモンでさえ、
この花の一つほどにも
着飾ってはいなかった。
きょうは生えていて、
あすは炉に
投げ入れられる
野の草でさえ、
神はこのような
装って下さるのなら、
あなたがたに、
それ以上よくして
くださらないはずが
あろうか。
ああ、信仰の
薄い者たちよ。」

マタイ 6 : 28 - 30



メッセージ

4 大管長会メッセージ—— 証と改心

ヘンリー・B・アイリング管長

7 家庭訪問メッセージ—— イエス・キリストの特質 ——罪のない御方

特集

14 バプテスマという門

J・デビン・コーニッシュ長老

水に沈められるバプテスマは、永続する改心に至る聖約の道の始まりです。

18 一つの新たな神殿、 三つの新たな機会

ドン・L・サール

神殿のオープンハウスで御霊に導かれたこれらのグアテマラ人の家族は、昇栄への旅路を歩み続けています。

22 心と思いを変える家族歴史

エイミー・ハリス

家族歴史を探求していると、神の計画の壮大さと神がわたしたち一人一人を愛しておられることに気づきます。

26 神殿と科学技術のある 「自分の時代」

ニール・L・アンダーセン長老

皆さんは特別な使命を帯びてこの時代に地球に送られました。その使命の中には、救いの業を助けるという責任も含まれています。

34 人生の旅が終わる前に

リチャード・M・ロムニー

よく堪え忍ぶことに関してなら、神とその子供たちに献身的に奉仕することに生涯をささげてきた人々の模範から多くのことを学べます。

シリーズ

8 2014年10月の大会ノート

10 わたしたちが信じていること—— 祝福師の祝福—— 人生に対する靈感に満ちた導き

12 わたしたちの家庭、 わたしたちの家族—— 神殿の聖約に感謝する キャリー・フローレンス

38 末日聖徒の声

80 また会う日まで——真の愛 ジョセフ・B・ワースリン長老

表紙

表紙——写真／マシュー・ライアー
表紙裏——写真／ウィリー・ファン

46



42 安息日の祝福

エマリン・R・ウィルソン

ヤングアダルトたちは安息日を聖く保とうと努めるときに、奇跡を経験しています。

46 ヤングアダルトの プロフィール—— フランス領ポリネシアに見る 強靱なパドルと強い証

ミンディ・アン・リービット



今月号の中に隠れている
リアホナをさがしましょう。
ヒント——リュックサックを
忘れないでください。

48 毎日神に頼る

D・トッド・クリストファーソン長老

天の御父は、わたしたちが日々求める助けを与えたいと強く願っておられます。

52 良い友達から力をもらう

ホルヘ・F・ゼバヨス長老

皆さんが選ぶ友達は皆さんの人生に大きな影響を及ぼします。ですから、友達を賢明に選ぶことが大切です。

54 仲の良い友達がつまずくとき

あなたの友達が標準を下げ始めたとき、どうしたらいいでしょうか。

57 わたしたちのスペース

58 前世について分かっていること

ノーマン・W・ガードナー

自分が前世で救い主に従う選択をしたことを知っていると、現世の生涯を通じて良い選択をすることができるようになります。

60 質疑応答

最近大切な友人を亡くしました。この悲しみにどう対処すればよいでしょうか。

62 ソフィアのいない寂しさ

フェルナンド・ペラルタ

姉とわたしは恐ろしい事故に巻き込まれました。そのときわたしの家族は平安を見いだすために、神殿の聖約に信頼を置きました。

64 聖文を研究するための時間

リチャード・G・スコット長老

学校や仕事、ソーシャルメディアよりも大切なことは何でしょうか。



70

65 特別な証人——

ホイットルおばあちゃんからの手紙

66 あなたの番です

ゲーリー・E・ステューブソンビショップ

今こそ、神にお会いする用意をし、他の人も神にお会いする用意ができるように助ける時です。

68 わたしたちの ページ

69 すばらしい 考え

70 いつだっておいのりする時間はある

バーバラ・ホブフ

学校にいくのがこわくてたまらなかったフィンに、お母さんがかんたんなかいけつほうを教えてくださいました。

72 新しい友達を助ける

クインリー・W

聖霊は、あいを示す方法が分かるよう助けてくださいます。

73 音楽——主がヨルダン川で

ジーン・P・ローラー

74 せいぶんの時間——

バプテスマを うけられた イエス

エリン・サンダーソンとジーン・ビンガム

76 小さな みんなのために ——

お話を する ジュリアナ

ジェーン・マクブライド・チョート

52



リアホナ 2015年2月号

第17巻2号(12562 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネelson、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ペドナ、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン

編集長: クレグ・A・カードン

顧問: マービン・B・アーノルド、クリストフェル・ゴールデン、ラリー・R・ローレンス、ジェームズ・B・マルティノ、ジョセフ・W・シスターディ

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワナー

兼務ディレクター: ピンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー: ガープ・キャン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ライアン・カー

出版補佐: リサ・キャロリーナ・ロベス

執筆・編集: フリットニー・ビーティ、デビッド・ディクソン、デビッド・A・エドワーズ、マシュー・D・フリットソン、ローリー・ブラー、キャレット・H・ガフ、ラリー・ポーター、ガント、ミンディ・アン・リービット、マイケル・R・モリス、サリー・ジョンソン、オデカーク、ジョシュア・J・パーキー、ジャン・ピンボロー、リチャード・M・ロムニー、ポール・バンデンバーク、マリッサ・ウィティン

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ピーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース、フェイ・P・アンドラス、C・キンボール、リック・トーマス・チャイルド、ネート・ギネス、コリー・シンクレイ、エリック・P・ジョンソン、スーザン・ロフグレン、スコット・M・ムーイ、マーク・W・ロビンソン、ブラッド・テアー、K・ニコール・ウォーケンホースト

版権および許諾コーディネーター: コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹: ジェン・アン・ビーターズ

制作: ケビン・C・バックス、コニー・パウソフ・ブリッジ、ジュリー・バーデット、ブライアン・W・ギュギ、デニス・カービー、ギニー・J・ニルソン、ゲイル・テート・ラファティ

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: スティーブン・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳課長: 森田康貴

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30

電話 03-3440-2351

年間予約/海外予約 950円(送料共)

普通号/大会号 100円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ iahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は iahona@ldschurch.org へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語、アルメニア語、ヒスラマ語、ブルガリア語、カンボジア語、セブアノ語、中国語、中国語(簡体字)、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、エストニア語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、アイスランド語、インドネシア語、イタリア語、日本語、キリバス語、韓国語、ラトビア語、リトアニア語、マダガスカル語、マーシャル語、モンゴル語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、サモア語、スロベニア語、スペイン語、スワヒリ語、スウェーデン語、タガログ語、タヒチ語、タイ語、トンガ語、ウクライナ語、ウルドゥー語、ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2015 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用することは複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

February 2015 Vol. 39 No. 2. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.lds.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。

以下に二つの例を挙げます。



「バプテスマを うけられた イエス」74 ページ——家庭の夕べを始めるときに、「主がヨルダン川で」(73 ページ参照) を歌うとよいでしょう。イエスがバプテスマを受けられた聖書の話と一緒に読み、家族の中でバプテスマを受けている人に、バプテスマと確認を受けたときに感じたことや学んだことを話そうに勧めてもよいでしょう。一緒に読み、証を述べるときに、子供がバプテスマに関連した聖約を理解できるように助けてください。バプテスマの聖約について子供に教えるときに、この記事に書かれた「せいくに ついでの しつもん」を用いるとよいでしょう。

「真の愛」80 ページ——1 週間のうちのどこかで、家族の一人に、一日に起きるちょっとした親切な行いを探そうに言います。そして、家庭の夕べの中で、1 週間に目にしたことを発表してもらいます。ワースリン長老が述べているように、「弟子の道は愛に始まり、愛に終わります。」1 本の道を描いた簡単な絵を家族に見せ、次のように説明します。その道には幾つもの小さな区切りが入っています。大小を問わず親切な行いをするたびに、その道の一区切りに色を塗ってください。愛を示すように努めるとき、弟子となる道を進んで行くのです。

あなたの言語で

languages.lds.org で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

愛, 80

安息日, 42

イエス・キリスト, 7, 73, 74

祈り, 4, 12, 70

改心, 4, 14, 18

家族, 12, 18, 22, 62

家族歴史, 22, 26

死, 60, 62

祝福師の祝福, 10

贖罪, 7

信仰, 26, 34, 41, 48

神殿, 18, 26, 41, 55

聖典, 39, 64

聖約, 14, 18, 62

前世, 58

総大会, 8

テクノロジー, 26

伝道活動, 18, 38, 40

友達, 52, 54, 72

堪え忍ぶ, 34

バプテスマ, 14, 18, 40, 73, 74

奉仕, 34



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

あかし 証と改心

真理の証を得ることと真に改心することの間には違いがあります。例えば、偉大な使徒ペテロは救い主に、イエスが神の御子であられることが分かったと証を述べました。

「イエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。』

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』

すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。』(マタイ 16:15-17)

さらに後に、ペテロへの勧告の中で、主は彼に、またわたしたちに、真に改心して生涯その改心を深めるための一つの指針を与えてくださっています。イエスはこのように述べておられます。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ 22:32)

イエスはペテロに、大きな変化がまだあることを教えました。それは、イエス・キリストの真に改心した弟子として考え、感じ、行動できるようになるために、証を持つこと以上のものでなければなりません。それがわたしたち全員の求める大きな変化なのです。そして一旦それを得たら、死すべき試しの生涯の最後までその変化を継続する必要があります(アルマ 5:13-14 参照)。

霊的な力を感じるすばらしい機会を何度か持つだけでは不十分であることを、わたしたちは自分の経験から、また他の人々を見て知っています。ペテロはイエスがキリストであられるという証を御霊によって得た後でさえ、救い主を知っていることを否定しました。モルモン書の三人の証人は、モルモン書が神の言葉であるという直接の証を得ました。にも

かかわらず、後にジョセフ・スミスを主の教会の預言者として支持することができなくなりました。

アルマ書に述べられているように、わたしたちの心が変わることが必要なのです。「彼らは皆すでにその心が改まっており、もう二度と悪を行いたいとは思わなかったので、そのことを口をそろえて人々に告げた。」(アルマ 19:33。モーサヤ 5:2 も参照)

真に主の福音に改心するとき、わたしたちの心は利己的な関心事から離れて、他の人々が永遠の命を目指して進むように彼らを高める奉仕へ向かうと、主は教えてくださいました。そのような改心をするために、わたしたちは、新たな者になれるという信仰をもって祈り、行動を起こすことができ

このメッセージから教える

十 二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、改心が1回の出来事ではなく継続的な過程であることを教えるために、「ピクルスのたとえ」を用いました。「教訓に教訓、規則に規則を重ね、徐々に、そしてほとんど気づかないくらい少しずつ、わたしたちの動機、思い、言葉、行いが神の御心に添うものとなっていきます。」(「あなたがたは再び生まれなければならない」『リアホナ』2007年5月号, 21) あなたが教える人たちとともにピクルスのたとえを復習するとよいでしょう。アイリング管長とベドナー長老の二人が述べているように段階的に改心の過程を踏んで着実に前進するために、わたしたちは何をすることができるのでしょうか。

ます。イエス・キリストの贖罪^{しよくざい}によって新たな者になることができます。

わたしたちはまず祈ることによって、自己本位を悔い改めることができるという信仰と、自分よりも他の人々に気を配る賜物^{たまもの}を求めることができます。高慢と妬みを捨てるために力を求めて祈ることができます。

祈りは、神の言葉を愛する賜物を得るための、またキリストの愛を身につけるための鍵でもあります（モロナイ 7:47 - 48 参照）。この二つはともにもたらされます。神の言葉を読み、それについて深く考え、祈るとき、それを愛するようになります。主がそれを心に植え付けてくださるのです。その愛を感じる時、わたしたちはますます主を愛するようになります。それとともに、他の人々を愛する気持ちが湧いてきます。その愛は、わたしたちにとって、神がわたしたちの道に置いてくださる人々を強めるために必要なものなのです。

例えば、わたしたちは、主が宣教師に誰を教えさせたいと思っておられるか気づくように祈ることができます。専任宣教師は、何を教えて証すべきか御霊によって知るために、信仰をもって祈ることができます。出会う



アルマ書第 19 章に記されているラモーナイの民が経験したように、わたしたちの心が変わる必要があります。

全ての人に対する主の愛を感じさせてくださるようと、信仰をもって祈ることができます。出会う全ての人をバプテスマの水と聖霊の賜物に導けるとは限りません。しかし、宣教師は聖霊を伴侶とすることができるのです。奉仕によって、また聖霊の助けによって、その後やがて宣教師の心は変化を遂げることでしょう。

彼らとわたしたちが、イエス・キリストの福音によって他の人々を強めるように、生涯信仰をもって行動し続けるとき、その変化は何度となく更新されることでしょう。改心は、1 回限りの出来事、あるいは人生のほんの一時期

だけのものではなく、継続的な過程となります。人生はますます輝きを増してついには真昼となり、わたしたちは救い主にまみえ、自分が救い主のようになっていることを知るのです。主はその旅を次のような言葉で表現しておられます。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」（教義と聖約 50:24）

わたしは皆さんに、それはわたしたち一人一人にとって可能である、と約束します。■

わたしの心の変化

ダンテ・バイラド

わたしはイエス・キリストの回復された福音について初めて学んだとき、それは真実であると御霊が証するのを感じました。祈りによって証はさらに確かなものとなり、わたしはバプテスマを受ける決心をしました。

バプテスマ後間もなく、伝道に出ることについてどう思うかとワードの人々から尋ねられるようになりました。正直に言って、どう答えるべきかまったく分かりませんでした。家族と離れ学校もやめて伝道に出るという考えは不条理なことのように思われたのです。

その後のある日、自分の改宗について考え始めました。わたし

を教え、質問に忍耐強く答え、福音を理解できるように助けてくれた宣教師のことを思い出しました。そして、彼らの助けがなければ、わたしは決してまことの教会を見いだしていただろうということに気づいたのです。そのことに気づくやいなや、伝道に出たいという思いが心の中で強くなりました。そして、専任宣教師として奉仕するべきであると御霊が告げるのを感じることができました。

伝道活動が天の御父の業であること、そしてわたしたちは回復された福音のすばらしい知識を人々にもたす助けができることを、わたしは知っています。

筆者はブラジル、フォルタレザ在住です。

こども

あなたの あかしを かがやかせなさい

あかしを きずくことは、火を おこすのに にています。火を もやし つづけるには 木を たしつづけなければなりません。それと 同じように、あかしを 強めるには いのったり、くいあらためたり、人に ほうしを したり、せいぶんを 学んだり、いましめを まもったりしなければなりません。

あかしを きずく ほうほうを もっと学ぶために、つぎの せいくを 読んでください。あなたが 読んだ せいくに 合った ほんのいろに 色を めってください。せいくを よめば よむほど、火 つまり あなたの あかしは もっと 明るく かがやきます。

- A. モーサヤ 2 : 17
- B. アルマ 5 : 46
- C. アルマ 32 : 27
- D. 3 ニーファイ 15 : 10
- E. ヨハネ 5 : 39



祈りをもってこの資料を学び、何を伝えるべきか分かるよう祈り求めてください。
救い主の生涯と役割が理解できるようになると、救い主を信じるあなたの信仰はどれほど増し、
家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹にどれほど祝福が注がれるでしょうか。
詳しくは <https://www.lds.org/callings/relief-society?lang=jpn> をご覧ください。

イエス・ キリストの特質—— 罪のない御方

本記事は、救い主の特質に焦点を当てた
家庭訪問メッセージシリーズの一環です。

わたしたちの救い主イエス・キリストは、人類のために贖罪しよくざいを行方のある唯一の御方です。大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長は次のように述べています。「傷のない小羊イエス・キリストは、自発的に犠牲の祭壇に身を横たえ、わたしたちの罪のために〔代価を〕払ってくださいました。」¹ イエス・キリストは罪のない御方であられたことを理解すると、主を信じる信仰を深めることができ、主の戒めを守り、悔い改め、清くなるように努められるようになります。

十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老はこのように述べています。「イエスは……肉体と霊の存在でしたが、誘惑に屈するようなことはなさいませんでした（モーサヤ 15:5 参照）。わたしたちは主に頼ることができます。……主は理解して下さるからです。その葛藤を理解しておられ、またその葛藤に



どうしたら打ち勝てるかも理解しておられるのです。……

……主の贖罪の力は、わたしたちの内にある罪の影響力を消し去ってくれます。悔い改めるとき、主の贖いの恵みにより、わたしたちは罪のない者となり、清められるのです（3 ニーファイ 27:16 – 20 参照）。そして、罪に負け、誘惑に屈した事実がなかったかのようにして下さるのです。

毎日、毎週、キリストが示された道に従って歩もうと努めるとき、わたしたちの霊は肉体に対して優位を主張し、内なる戦いは静まり、誘惑は力を持たなくなります。」²

その他の聖句

マタイ 5:48；ヨハネ 8:7；ヘブル 4:15；2 ニーファイ 2:5 – 6

注

1. ディーター・F・ワークトドルフ「あなたなら、今できます」『リアホナ』2013年11月号、56 参照
2. D・トッド・クリストファーソン「彼らをもわたしたちのうちにらせるため」『リアホナ』2002年11月号、71 – 72 参照



信仰・家族・扶助

聖文から

救い主は、神の御子であられ、罪のない生涯を送られました。そして、ゲツセマネの園で苦しみ、血を流し、十字架上で亡くなり、墓からよみがえられました。このようなことを通して、わたしたちの罪の代価を払ってくださったのです。ですから、わたしたちはイエス・キリストの贖罪により、罪を悔い改めるときに、再び清くなれるのです。

ベニヤミン王はイエス・キリストの贖罪について民に教えた後、自分の言葉を信じるかどうか尋ねました。「すると民は皆、声を合わせて叫んだ。……『御霊は、わたしたちが悪を行う性癖みなまをもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました。……

そしてわたしたちは、……神の御心みこころを行い、……すべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わします。』（モーサヤ 5:1 – 2, 5）

わたしたちも、「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つ」ベニヤミン王の民のように、「大きな変化」を遂げることができます（モーサヤ 5:2）。

考えてみましょう

清いということは、完全であることと、
どう違うのでしょうか。

2014年10月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ〔る。〕……
わたし自身の声によろうと、わたしの僕^{しもべ}たちの声によろうと、それは同じである。」
(教義と聖約1:38)

2014年10月の総大会を読み返す際に、このページ(および今後の「大会ノート」)を使って、
生ける預言者と使徒、他の教会指導者の最近の教えを学び、生活に取り入れることができます。

教義的な重要点



黄金律に従う

「キリストに従う人々は、礼節の模範となるべきです。わたしたちは全ての人々を愛し、良い聞き手となり、相手の誠実な信念に関心を示すべきです。賛成はできなくても、攻撃的になることはありません。意見の分かれるテーマについては、争いを引き起こすような態度を執ったり、発言したりするべきではありません。わたしたちは、知恵を使って、教会員としての立場を説明、追求し、影響力を行使しなくてはなり

ません。その際、わたしたちの真心からの宗教的信条や宗教の自由な実践が人を不快にさせないようにと願っています。わたしたち全員が救い主の黄金律を実践するように、すなわち『何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりに〔する〕』ようにお勧めします(マタイ7:12)。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オックス長老
「違いがあっても周りの人を愛し、受け入れる」
『リアホナ』2014年11月号、27

預言者の約束



啓示

『啓示は今も教会の中で与えられ続けています。預言者は教会のために、ステーク会長はステークのために啓示を受けます。伝道部会長は伝道部のために、定員会会長は定員会のために受けます。ビショップはワードのため、父親〔と母親〕は家族のため、個人は自分のための啓示を受けるのです。』¹
この言葉が真実であることを証^{あかし}します。

……
神は聖霊を通して、御自身の子供たちに啓示を豊かに注がれます。地上における御自身の預言者に、現在はトーマス・S・モンソンに語られます。預言者が地上のあらゆる神権の鍵を持っており、行使していることを証します。」

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
「絶えざる啓示」
『リアホナ』2014年11月号、73

注

1. ボイド・K・バックー「われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしことを信ず」
『聖徒の道』1974年12月号、564 参照



行って行く

十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は、青少年が「預言者ジョセフ・スミスについて個人的な証を得」ることができる二つの方法を提案しました。

「まず、モルモン書の中から、完全に真実だと感じ、そうだと知っている

聖句を見つけてください。〔それから〕家族や友人にそれを分かち合い、ジョセフが神の御手に使われる者であったことを知らせてください。次に、高価な真珠にある預言者ジョセフ・スミスの証を読んでください。……ジョセフ・スミスの証を自分の声で録音して、定期的に聴いたり、友人に紹介したりしてもよいでしょう。」

「ジョセフ・スミス」

『リアホナ』2014年11月号, 30, 31から

あなたのための 答え

各大会で、預言者と指導者は教会員が抱くかもしれない疑問に靈感を受けて答えています。それらの疑問への答えを見つけるには、『リアホナ』2014年11月号を読むか、lds.org/general-conference?lang=jpn にアクセスしてください。

- どのようにすれば聖餐の大切さをよりよく理解することができますか。チェリル・A・エスプリン「聖餐——霊の更新のとき」12 参照
- 選択の自由、正義、憐れみ、悔い改め、そして救い主の贖罪の間にはどのような関係があるのでしょうか。D・トッド・クリストファーソン「とこしえに自由となり、思いのままに行動することができ」16 参照
- どうしてイエス・キリストの福音を教える理想的な場所は家庭なのでしょう。タッド・R・カリスター「親——子供にとって最も重要な福音の教師」32 参照
- 両親は永遠の家族を築くためにどのように協力できるのでしょうか。L・トム・ペリー「永続する平安を見だし、永遠の家族を築く」43 参照

総大会の説教を読んだり、見たり、聴いたりするには、lds.org/general-conference?lang=jpn にアクセスしてください。

きてごらん下さい



末日聖徒はなぜ福音を分かち合いたがるのでしょうか。

「イエス・キリストの献身的な僕は、これまでも、またこれからも、常に雄々しい宣教師であり続けます。」十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老はそう語った。「宣教師はキリストの弟子であり、キリストが贖い主であられることを証し、キリストの福音の真理を宣べ伝えます。

イエス・キリストの教会は、これまでも、またこれからも、伝道し続ける教会です。

……自分にとって最も意義あること

や役に立ったことを人に伝えることは、ごく当たり前のことなのです。

霊に関する非常に大切で重要な事柄については、そのことが特に顕著に現れます。」

人々が福音や教会に関心を示したとき、わたしたちは何ができるでしょうか。ベドナー長老は、「きてごらん下さい」と人々を招くことによって救い主の模範に従うことができる、と述べています(ヨハネ1:39)。

「きてごらん下さい」

『リアホナ』2014年11月号, 107, 109から

祝福師の祝福—— 人生に対する靈感に満ちた導き

教会には祝福を受ける2種類の神権者がいます。それは、(1)父親と、(2)メルキゼデク神権の祝福師の職に聖任された男性です。メルキゼデク神権を持つ父親は、自分の家族に祝福を与えることができますが、その祝福は家族の記録に残されることはあっても、教会の記録として残されることはありません。一方、聖任された祝福師によってふさわしい教会員に授けられた祝福は、教会の記録として残ります。この祝福は、「祝福師の祝福」と呼ばれています。

祝福師は聖霊の導きに従って祝福を与えます。あなたの祝福文には、警告と約束が書かれていることもあります。また、主があなたに期待してお

られることやあなたの潜在能力が示されていることもあります。約束された祝福は、あなたが忠実であることを条件に、主の時に成就するでしょう。祝福の中の勧告に従うことによってのみ、約束された祝福を受けるのです。祝福の幾つかは、次の世で成就するのかもしれませんが、祝福師の祝福は、あなたの人生について何から何まで詳しく述べるものではありません。例えば、祝福の中に専任伝道や神殿結婚について述べられていなくても、そのような機会がないということではありません。

祝福師の祝福では、イスラエルの家におけるあなたの血統も宣言されます。あなたは、エフライム、ユダ、マナセか、

あるいは他の部族の血統の一つに属するでしょう。¹ この血統は大切です。アブラハムの聖約の中で主は、アブラハムの子孫によって「地のすべての氏族は……福音の祝福を受けられるであろう」とアブラハムに約束されたからです(アブラハム2:11)。全ての教会員は、文字どおりの血筋、または霊的な養子縁組によって、イスラエル家に属するのです。イスラエル家に属する者として、わたしたちには世の中に福音をもたらすうえで果たすべき役割があります。

祝福師の祝福を受けるには、推薦状を発行することのできるあなたのビショップか支部会長と話してください。事前に断食して祈るなら、祝福を受けるという経験をさらに霊的なものにすることができます。あなたが祝福師の祝福を受けるとき、家族が同席することができます。

祝福を受けた後に、祝福文のコピーがあなたのものに送られてきます。それを内密に保ってください。祝福にある勧告と約束は本人だけに向けられたものなので、あまり気軽に他の人に見せないでください。度々祝福文を研究することにより、導き、慰め、守りが与えられます。■

注

1. イスラエルの十二部族について知るには、lds.org/scriptures/gs?lang=jpn または『聖句ガイド』の「イスラエル」の項を参照してください。

自分だけの貴重な宝



「主はリーハイに羅針盤をお与えになりましたが、そのように今も、わたしたちの進むべき方向を示すために一つの珍しい、貴重な^{たまたもの}賜物を用意してくだ

さっています。それはわたしたちを安全に守るために、危険に対する注意を喚起し、道すなわち安全な道を目に見えるように

示して、わたしたちを約束の地ならめ天の家へと導いてくれるものです。わたしの言う賜物とは、皆さんが受けている祝福師の祝福です。ふさわしい会員なら誰でも、お金では買えない、貴重な自分だけのこの宝を頂くことができます。」

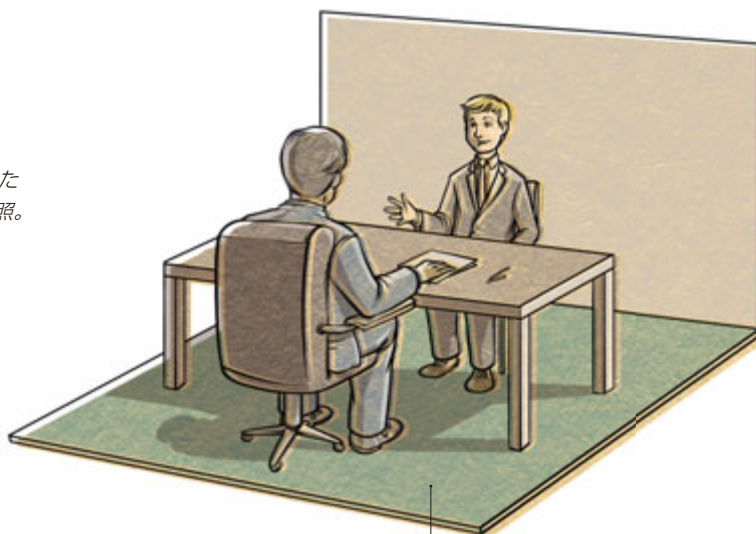
トーマス・S・モンソン

「祝福師の祝福は光の羅針盤」

『聖徒の道』1987年1月号, 68 参照



祝福師の祝福は、
アダムが自分の子孫を
祝福した時代に始まりました
(教義と聖約 107:53 参照。
子孫を祝福した
ヤコブの話については
創世 49 章も参照)。

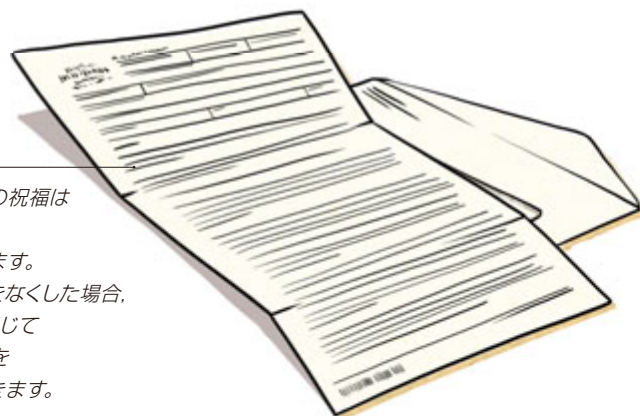


ビショップまたは
支部会長から面接を受け、
あなたが祝福師の祝福を
受ける備えができているかを
判断してもらいます。



祝福師の祝福を受けた後に、
度々祝福文を研究し、
その勧告に従うように
努めてください。
そうすることにより、
慰めを受け、
信仰が強められます。

新約聖書の中で
「伝道者」と呼ばれている
祝福師の職は、
この末日に
回復されました。
ジョセフ・スミス・
シニアは
教会における
最初の祝福師でした。



全ての祝福師の祝福は
教会本部に
保管されています。
自分のコピーをなくした場合、
LDS.org を通じて
再発行の申請を
することができます。

神殿の聖約に感謝する

キャリー・フローレンス

わたしの胎内にいる息子が死にかけているとき、一体どうしたらこの悲しみが癒やされるでしょうか。

3 人目の子を身籠もってからわずか14週で、胎児は肺に障がいがあるため流産となるだろうと医者から告げられました。衝撃的な知らせにわたしは悲嘆に暮れ、恐怖と将来への不安におののきました。その晩、夫とわたしは神殿に行きました。心は重く、目には涙があふれていました。祈りの答えと導き、耐える力が必要でした。平穏な神殿の中では主に近づけると分かっていたのです。日の栄えの部屋で感じた平安に驚きました。おなかの子は地上に生き長らえることはないとしても、何も心配することはないと分かりました。

その後、わたしはひざまずいて天の御父に心の底から祈りました。息子が生き長らえることはないと分かりましたが、できることなら特別な祝福を頂きたいと述べました。また、たとえ望みがかなえられなくても、信仰を失うことはない^{あがな}と約束しました。息子が生きる可能性のある時間よりほんの少しでも長くわたしと一緒に過ごし、家族全員が赤ん坊を抱けるようにお願いしたのです。医者^{あがな}の話では、何らかの奇跡により月満ちて生まれるとしても、肌が紫色の状態^{あがな}で生まれるだろうとのことでした。でも、幼い息子たちが怖がらずに弟を抱けるように、血色のいいピンクの肌色で生まれるようにと祈りました。生まれてくる子の名前はブライセンにしようと決

めていましたが、その子が逝ってしまった後で、永遠のきずなを忘れないようにさせてくださいと主にお願ひしました。

時がたつにつれ、医者はブライセンが胎内で成長するのに驚きを隠しませんでした^{あがな}が、生まれた後に亡くなることは確かだと警告しました。ブライセンを失うことを知って、わたしは言葉ではとうてい表せないほど胸が痛みましたが、同時に、まだ成長し続けていることに大きな喜びを感じていました。生き長らえることのないこの子をおなかに宿していることは、いつも心の重荷となっていました。生まれてくる子は男の子か女の子か、予定日はいつか、などと人に聞かれ、何も問題がないかのように装わなくてはならないことが苦痛でした。毎日心臓の鼓動を確認できるようにモニターを購入し、その大切な音が聞こえるかどうか常に気がかりでした。わたしの悲しみは深刻でした。救い主の贖い^{あがな}がわたしにとって新たな意味を持つようになりました。イエス・キリストはわたしの罪のために苦しまれただけではなく、全ての悲しみや苦痛をも身に受けられたということが、経験を通してやっと分かりました。わたしの救い主として、主は本当にわたしと一緒に重荷を背負ってくださったのです。ですから、決してわたしは独りではないのです。

わたしは37週目に入院し、ブライ

センの限られた命の時計がいよいよ音を立てて時を刻み始めました。それは恐ろしいけれども美しい響きでした。医者^{あがな}の話では生存期間は短くて10分、長くても数日だろうとのことでした。恐怖感はありませんでしたが、主から頂いた平安に満たされていました。



親への慰め

「ジョセフ・スミスは、幼くして死んだ子供は子供として復活するという教義を教え、子供を亡くした母親に向かって、こう語りました。『あなたは子供が復活した後、その霊の徳の高さに達するまでその子供を育てる喜びと楽しみ、満足を得るでしょう。』死より復活した後に、回復があり、成長があり、発達があります。わたしはこの真理をこよなく愛しています。この真理は大きな幸せと喜びと感謝をわたしの心に与えてくれます。」

ジョセフ・F・スミス大管長（1838 - 1918年）
『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』132



ブライセンは 72 分間しか生きることができませんでしたが、その時間は家族一人一人が赤ん坊を抱いて愛を伝えるのにちょうど十分な長さでした。地上で家族が皆一緒に過ごす唯一の時間でしたが、それはわたしたちが何より望んだものでした。

ブライセン・ケード・フローレンスは 2012 年 1 月 27 日に生まれました。ピンク色の肌をした本当にかわいらしく非の打ち所のない子の姿を見て、わたしはむせび泣きました。

上の子供たちが部屋に駆け込んで来て弟に会い、抱きました。その瞬間を記録するために、カメラマンに撮影を頼んでおきました。ブライセンは 72 分間しか生きることができませんでしたが、その時間は文字どおり、家族一人一人が赤ん坊を抱いて愛を伝えるのにちょうど十分な長さでした。地上で家族が皆一緒に過ごす唯一の時間でしたが、それはわたしたちが何より望んだものでした。上の子供たちは赤ん坊にキスしたり、歌を聞かせたり、抱っこしたがったりして、切りがありませんでした。ブライセンは父親から祝

福を受けるのに十分な時間さえ、生き長らえることができました。夫が望み、祈り求めていたことがなかったのです。

わたしたちには家族としての証^{あかし}があります。それは「神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にし」、神殿の儀式と聖約により「家族として永遠に一つとなる」ことができるというものです（「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010 年 11 月号, 129）。わたしたちにとって、永遠の家族を持つことはかけがえないものです。福音の最も素晴らしいところは、死がわたしたちを引き離すことは決してないという点です。わたしたちは一緒に旅を続けるのです。

この試練を通してわたしは次のことが分かるようになりました。神は細部にわたってわたしたちの生活に関心を

抱いておられます。わたしたち一人一人を心にかけておられるのです。試練や困難はありますが、神はそれらを耐えやすくしてくださいます。神殿で夫と結び固められたことと、子供たちが聖約の下で生まれたことに、わたしは今、かつてないほど深く感謝しています。神がわたしたちの家族のためにすばらしい計画を立ててくださり、その一環として救い主が無限の犠牲を払われたおかげで、わたしたちは再び一緒になれるのです。その永遠の真理を知らなければ、この困難な試練に耐えられなかったであろうとしばしば考えます。ブライセンの短い生涯のゆえにわたしが得た証に深く感謝しています。神の祝福を一層十分に分かるように、神はわたしの目と心を開いてくださったのです。■
筆者はアメリカ合衆国アリゾナ州在住です。



七十人
J・デビン・
コーニッシュ長老



バプテスマ という門

わたしたちはバプテスマを受ける必要があること、バプテスマは生涯にわたり改心の道を歩むための門であり、
救い主はわたしたちの罪を贖^{あがな}われた憐れみ深い愛の御方であるということについて、
わたしたち一人一人が一層十分に理解できるように祈っています。

グレン(仮名)は混乱と葛藤に満ちた生活を送っていました。10代の頃、非行グループに入り、犯罪と暴力に手を染めました。宣教師に会ったとき、宣教師が信じていることは、あまりにも良い話で本当のはずがないと思いました。しかし、時がたつにつれて、それはまさしく真実であり、かつて知っていた他の何よりも大きな価値があるものだということが分かるようになりました。

グレンは生活を整え、真心から悔い改めて福音に従った生活を送るようになった後、バプテスマの水に入りました。光と平安と喜びに満ちた新しい生活を見いだしたのです。こうして主の前にあって清くなりました。

ニーファイはこう述べています。

「したがって、わたしがあなたがたの主であり贖い主である御方の行われることを先見して、これまで語ってきたことを、あなたがたも行いなさい。これらのことがわたしに示されたのは、あなたがたが入らなければならない門を知ることができるようにするためである。あなたがたが入らなければならない門とは、悔い改めと、水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦^{ゆる}しが与えられる。

そのとき、あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道に
いることになる。まことに、あなたがたはその門から入っ
ている。」(2ニーファイ 31:17-18)

この聖句は次のように明瞭に教えています。バプテスマは
神とその子供たちの間で交わされる聖約の神聖な印であり、
わたしたちの救いのために必要なものです(マルコ 16:16;

使徒 2:38; 2ニーファイ 9:23-24も参照)。実際、この
儀式は非常に重要で不可欠なので、「すべての正しいことを
成就する」ために、イエス御自身もバプテスマをお受けにな
りました(マタイ 3:15)。

この点について、ニーファイによる次の説明は誤解の余地
がありません。「さて、神の小羊が聖なる御方であっても、
あらゆる義を満たすために水でバプテスマをお受けになる
必要があるとすれば、おお、聖くないわたしたちがバプテスマ
を、すなわち水でバプテスマを受けることは、なおさら必要
ではないだろうか。」(2ニーファイ 31:5)

わたしたちはバプテスマを受けるとき、「神の羊の群れに
入って、神の民と呼ばれ……重荷が軽くなるように、互いに
重荷を負い合う」という聖約を進んで交わすということを天
の御父に証言します。

「また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めること
を望み、また神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに
数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのような
ことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の
証人になることを望んでいる」のです(モーサヤ 18:8-9)。

わたしたちは毎週日曜日に聖餐にあずかるとき、この聖約
を新たにします。聖餐の祈りの中で述べられる聖約の言葉
は、天の御父の子供たちに「進んで御子の御名を受け、いつ
も御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを」
証明し、「いつも御子の御霊を受けられるように」するよう
勧めます(教義と聖約 20:77)。



入門の儀式

バプテスマは、神に進んで従う意志を証明するだけでなく、神の王国、すなわち地上におけるイエス・キリストの教会に入る門になります。聖句ガイドには、「権能を持つ者により水に沈められるバプテスマは、福音の最初の儀式であり、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるために必要なものである」¹と書かれています。

救い主はニコデモとの対話の中で、バプテスマの目的を明確に説明されました。「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊^{うま}とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ 3:5)

わたしたちが天の御父と御子のもとで生活するには、正しい権能によるバプテスマを受ける必要があります。しかし、バプテスマにはもう一つの基本的な目的があることをうれしく思います。バプテスマは、主の教会に入り、その後、日の栄えの王国に至るための門であるだけでなく、「キリストによって完全に」なるという目標へ向かって絶えず前進する不可欠で貴い道の出発点でもあります(モロナイ 10:32, 33)。その道はわたしたち各自が必要としており、望んでいる道です。この道は信仰簡条の第4条に述べられているとおり、まずイエス・キリストを信じる信仰に始まり、次に悔い改め、そして「罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ」と続き、最後に聖霊の賜物^{たまもの}を受けられるというものです。

簡潔に言うと、この継続的な過程を改心と呼ぶことができます。それについてイエスはニコデモに対して最初に言及されました。偉大な教師である主は、救われるためには何をしなければならぬかというニコデモの心にある疑問に答えて、こう言われました。「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。」

(ヨハネ 3:3)

新しく生まれるためには、バプテスマを受けるだけでは十分ではありません。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は次のように説明しています。

「〔聖文〕が教える霊的再生は概して短時間で起きたり、一度に起きたりするものではありません。一つの出来事ではなく、継続的な過程なのです。……

再び生まれる過程は、キリストを信じる信仰を働かせ、罪を悔い改め、神権の権能を持つ人によって罪の赦しを受けるために水に沈めるバプテスマを受けることから始まります。」しかし、他にも「新しく生まれる過程において不可欠の段階」があります。それは「救い主の福音に完全に浸り、福音を十分に吸収すること」です²。

「新しく生まれる」とは、言い換えれば、改心ということです。「打ち砕かれた心と悔いる霊」を持つことです。それは救い主が受け入れると言われた唯一のささげ物です(3 ニーファイ 9:19-20)。確かに、「心の中に、この大きな変化を経験」するまでは、誰も神の王国を「見る」ことはできません(アルマ 5:14。モーサヤ 5:2; アルマ 5:26 も参照)。

罪の赦しへと導くこの過程は、悔い改めてバプテスマを受けるに十分な信仰から始まります。モルモンはこの点について説明し、こう教えています。「悔い改めの最初の実^{ゆえ}はバプテスマである。バプテスマは信仰によって行われ、戒めを守ることである。そして、戒めを守るとは罪の赦しを生じ〔る。〕」(モロナイ 8:25)

多くの教会員と同様、わたしはグレンや他の人が経験したような劇的な改心を経験したことはありません。わたしは「善い両親から生まれ」、8歳のときにバプテスマを受けました(1 ニーファイ 1:1。エノス 1:1 も参照)。そのような人が、年を重ねてから教会に入る人と

同様な改心を経験できるようになるにはどうしたらよいでしょうか。

長続きする改心への門

これはわたしたち一人一人が、バプテスマという門について理解できるようになる最もすばらしい事柄の一つです。バプテスマは最終目的地ではありません。聖霊の賜物というなくてはならない賜物を頂くのですが、だからと言ってそれで終わりではありません。バプテスマは、真実の永続する改心という、生涯にわたって歩み続ける道への門なのです。

どの新会員もそうですが、この道の出発点は、バプテスマを受けることにより御父の御心みこころを行いたいと、信仰をもって真心から願うことです。そして、過去の全ての罪を深く反省し、罪を捨て、罪を告白し、できる限り償い、決して繰り返さないという徹底的な努力を続けます。バプテスマを受けた後は、思いと行いと人格の全てにおいて救い主をいつも覚えることを条件に、聖霊を絶えず伴侶とするという権利を授かります。こうして、わたしたちは清められるのです(2 ニーファイ 31:17 参照)。

しかし、バプテスマを受けた後に再び罪を犯したらどうなるのでしょうか。全てを失うのでしょうか。憐れみ深い御父は、わたしたちの人間的な弱さに対処する方法を用意してくださっています。キリストを信じる信仰と希望、心からの悔い改めという道を再び進むことができます。しかし、今回もその後も通例、バプテスマの儀式を受ける必要はありません。その代わりに主は聖餐せいさんの儀式を授けてくださいました。聖餐を通してわたしたちは、「自分を吟味し」(1 コリント 11:28 参照)、真心から悔い改めて、象徴的に言うならば罪を主の祭壇に置き、再び主の赦しを求め、新たな気持ちで再出発する機会が毎週与えられているのです。

この過程については、ベニヤミン王が語っています。「主なるキリストの贖罪しょくざいにより、生まれながらの人を捨てて聖徒とな〔る〕」過程です(モーサヤ 3:19)。また、わたしたちを束縛から解き放ち、まさしく高める過程です。それについてパウロはこう述べています。「わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。……」

わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となることがないためである。」(ローマ 6:4, 6)

これは継続的に積み重ねる過程であり、この道を進む者は天使とともにキリストの憐れみと功德を喜ぶことができます(アルマ 5:26 参照)。また、霊的な成長を遂げることができます。そうした成長は、儀式を受け、儀式に関連する聖約、すなわち神権の聖任の際および神殿で授けられる聖約を守るときに得られるものです。

わたしたちはバプテスマを受ける必要があること、バプテスマは生涯にわたり改心の道を歩むための門であり、救い主はわたしたちの罪を贖われた憐れみ深い愛の御方であるということについて、わたしたち一人一人が一層十分に理解できるように祈っています。主は「戸の外に」立って(黙示 3:20)、わたしたちがみもとに戻り、御子と御父とともに永遠に住むよう招いておられます。■

注

- 1.『聖句ガイド』『バプテスマ』の項、<https://www.lds.org/scriptures/gs?lang=jpn>
- 2.デビッド・A・ベドナー「あなたがたは再び生まれなければならない」『リアホナ』2007年5月号、21 参照、強調付加





一つの新たな神殿， 三つの新たな機会

次の三つの家族の生活は、グアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿のオープンハウスを訪れたことで変わりました。

ドン・L・サール

中央アメリカ地域シニア宣教師, 2012 - 2014 年

新たな生活の始まり

2011 年の夏、ブンドラム家族はグアテマラからアメリカ合衆国に引っ越す準備をしていました。カルロス・ブンドラムが医者として高度な研究を続けられるようにするためでした。

彼はこう回想します。「わたしたちが行く準備をしていたとき、何かがわたしを思いとどまらせました。」妻のアドリアナも同じように感じました。そこで、二人は一緒に祈り、行くべきではないという確信をその心に受けたのでした。

彼らは計画を取りやめ、神が自分たちのために何を考えておられるのか分からないままにいました。それから 4 か月後に、その理由を知ることになるのでした。

カルロスは 14 歳のときから教会員でした。しかし、21 歳で大学の勉強を始めた頃に教会の活動に参加しなくなっていました。

アドリアナ自身は教会員ではありませんでしたが、末日聖徒と結婚したいと長年思っていました。仲の良い友人が教会員で、優しく、愛情深く、思いやりのある帰還宣教師と結婚していました。アドリアナはそのような夫を望んでいたのです。

交際を始めたとき、アドリアナとカルロスは彼の宗教については話しませんでした。しかし、アドリアナの友人の夫と同じように、カルロスもその人柄の良さを多くの行いで示していました。彼が彼女に高圧的な態度を執ることはありませんでした。結婚して子供たちが生まれた後、彼が赤ちゃんを風呂に入れ、おむつ交換をすることに、アドリアナは感謝したものです。

3 人の子供が大きくなってくると、「わたしたちはもっと神に近づくべきだと考えるようになりました」と、カルロスは語ります。二人は一時通っていたキリスト教の教会では探していたものを見つけられませんでした。それでも、もっと神に近づく必要があるという気持ちは消えませんでした。

アメリカ合衆国に転居する計画を取りやめた後、ブンドラム家族は、家を少し改修することにしました。それには新しい窓を購入することも含まれていました。彼らは窓の取り付け

にきた人、ホセ・メナをすぐに好きになりました。ある日、彼と話していたときに、宗教の話になりました。自分は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると、彼は言いました。カルロスは、自分もそうだがしばらく出席していないと答えました。

次回メナ兄弟は窓の仕事にきたとき、家族の一人一人のためにモルモン書と『リアホナ』を持って来ました。その機関誌を読んで、カルロスは、懐かしい霊的な気持ちを抱くようになりました。その後、メナ兄弟は彼らをグアテマラ・ケツアルテンango 神殿のオープンハウスに招待しました。

神殿に入ったとき、ブンドラム家の子供たちは、「お父さん、どうすればこの教会の会員になれるの?」と尋ね始めました。そこを去るときに、10 歳の末息子ロドリゴが居残って、母親に手伝ってもらいながら、宣教師の派遣を要請するカードに名前を記入しました。

家族は宣教師と集会を持ちました。「わたしはバプテスマを受けるように家族にプレッシャーを掛けたくありませんでした。しかし、彼らは実際自分自身で御霊を感じました」と、カルロスは語ります。

アドリアナと子供たちは、2011 年 12 月、ケツアルテンango 神殿が奉献される数日前にバプテスマを受けました。「神が下さった大きな祝福は、わたしが家族にバプテスマを



施せたことです」と、カルロスは語ります。それからちょうど1年後に、家族は神殿で結び固めを受けました。それは彼ら全員にとって喜ばしい出来事でした。

結び固めを受ける機会

教会員ではなかったアナ・ビクトリア・エルナンデスがベルビン・カルデロンと結婚したとき、ベルビンは教会員でした。しかし、日曜日に働いていたため、教会には出席していませんでした。ベルビンはある強い気持ちに戻ってきたと語ります。「わたしは教会に戻りたくて、仕事を辞めました」と、回想して述べます。再び活発になった後、妻は、彼がより一層謙遜になったことに気づきました。そして、二人の家庭における一致はさらに深まりました。

ベルビンは妻が福音に関心を持つようにと願いましたが、無理強いしようとはしませんでした。ある日曜日、本棚のほこりを払っていたとき、アナ・ビクトリアは、教会の歴史に関するベルビンの本を1冊見つけ、興味を持って読み始めました。そして、開拓者の犠牲の話に深く胸を打たれました。

数週間後に、2011年10月号の『リアホナ』が届きました。モルモン書に関する特集号でした。またも好奇心から、アナ・ビクトリアはモルモン書を読み始めました。間もなく、モルモン書には歴史だけでなく、預言者の言葉も記されていることに気づきました。そして、夫や子供たちと一緒に聖餐会せいさんに出席するようになりました。

その後、彼女と家族はグアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿のオープンハウスへ行きました。アナ・ビクトリアは、家族は永遠の結び固めを受けられるということを知ったとき、感動を覚えました。「それはわたしにとって大きな衝撃でした。家族と結び固めを受ける必要があると感じました」と回想します。宣教師から福音を学ぶようになり、2011年12月7日にバプテスマを受けました。それから4日後に、神殿の奉献式に出席しました。

カルデロン兄弟と姉妹は、2012年12月に子供たちとともに神殿で結び固めを受けました。アナ・ビクトリアは、「永遠



に家族とともにいることができると知った」ときの喜びは言葉に表せないと言っています。ベルビンは、彼らの結び固めが確かなものであることを「わたしが想像できる最大の祝福」と呼んでいます。

主の御霊を感じさせる神殿

グアテマラ、ケツアルテナンゴでの神殿の建設は、モニカ・エレナ・フエンテス・アルバレス・デ・メンデスの夢をかなえるものでした。彼女は、福音への愛と、福音に伴う全ての祝福をもたらした教会の開拓者の娘です。母マグダ・エステル・アルバレスは、末日聖徒の宣教師が初めてグアテマラを訪れてから6年後の1953年にバプテスマを受けました。

モニカは教会の中で育ち、やがて教会員ではない善良な男性、エニオ・メンデスと結婚しました。彼は教会の活動で妻と娘を支援し、教会員のことを立派だと思いましたが、バプテスマを受けることには興味を示しませんでした。それでも、モニカは、いつの日かエニオは会員になるだろうと母親から言われたことを覚えています。何が彼の改心をもたらすか分からなくても、「わたしは決して信仰を失いませんでした」と語ります。

彼女の母親マグダ・アルバレスはグアテマラシティーの神殿を定期的に訪問するという祝福を享受しており、ケツアルテナンゴに神殿が建つと発表された2006年には喜びに満たされました。しかし、不治の病を患い、ケツアルテナンゴに神殿が建てられる前の2008年に亡くなりました。

モニカとヤングアダルトの娘モニカ・エステル・メンデス・フエンテスは、ケツアルテナンゴ神殿のオープンハウスのとき、ガイドとして一緒に奉仕しました。夫のエニオと一緒にオープン

ハウスへ行き、家族の知らない間にさらに2回訪れました。

オープンハウスの最終日に、一緒に神殿を後にしながら、モニカと娘は、エニオについてのマグダ・アルバレスの予言はいつか実現するのだろうかと考えました。

エニオは、お互いを尊重し合っている限り、自分は自分の教会の会員であり、妻と娘は彼女たちの教会の会員であってかまわないと、常々思っていました。しかし、神殿のオープンハウスでの経験から、多くのことを考えさせられました。「わたしは妻と娘に何も言わずに、断食をし、祈り始めました」と回想します。じっくり考えてみたくなり、山へ行きました。「『それで、わたしは何をしなければなりませんか』と主に尋ねました。」実際、何が正しいかをもう知っていましたが、不安を解消する必要があったのです。

エニオは2012年4月にバプテスマを受けました。それは妻と娘にとって非常に感動的な出来事でした。

メンデス家族は2013年10月にケツアルテナンゴ神殿で結び固めを受けました。メンデス姉妹は永遠の目標が達せられたことの喜びを語り、生涯の最後まで忠実でありたいと述べています。■



宝石のような輝き

グアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿の奉献に先立つ定礎式で、大管長会第二顧問のディーター・F・ワークトドルフ管長は次のような約束をしました。「この神殿はこの地とこの国に永遠の家族をもたらすことでしょう。」¹ ワークトドルフ管長が述べたように、「リーハイの息子たちと娘たち」²の間で、この神殿は希望のかかり火となっています。ワークトドルフ管長はまた、神殿の美しさについて述べ、「神殿は宝石のような輝きを放っています。この地域のための宝石です」と言っています。³

グアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿

2006年12月16日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910－2008年）により発表

2011年12月11日、ディーター・F・ワークトドルフ管長により奉献

2011年11月のオープンハウスに12万6,000人が来館

全世界で136番目に稼働している神殿

グアテマラで2番目の神殿（1984年にヒンクレー大管長によって奉献されたグアテマラ・グアテマラシティ神殿に次ぐ）

神殿の延べ床面積——2万1,085平方フィート（1,959平方メートル）

神殿地区——15ステークと7地方部に6万人の会員

注

1. ディーター・F・ワークトドルフ、ジェイソン・スエンセン、「Quetzaltenango Guatemala Temple: 'This Temple Will Bring Eternal Families to This Place and Country.'」*Church News*, 2011年12月11日付, ldschurchnews.com
2. 「Quetzaltenango Guatemala Temple: Dedicatory Prayer,」ldschurchtemples.com/quetzaltenango
3. 「Dedication Held for Quetzaltenango Guatemala Temple,」*Church Newsroom*, 2011年12月11日, mormonnewsroom.org



心と思い

を変える家族歴史

家族歴史を探究し、
先祖のために神殿の儀式を行うと、
神の計画が遠大であるだけでなく、
身近なものであることも分かります。

ブリガム・ヤング大学、歴史・系図学教授
エイミー・ハリス

何年もの間、わたしは神殿に参入する度に、高祖母のハンナ・マライア・イーグルズ・ハリス（1817 - 1888 年）について考えました。しかし、それは彼女のために神殿の身代わりの儀式をする必要があったからではありません。

マライア（彼女はこの愛称で呼ばれることを好みました）のおかげで、わたしの家族が教会にいても過言ではありません。1840 年にイギリスでバプテスマを受けたマライアは、イリノイ州ノーブーでエンダウメントを受け、ネブラスカ州ウィンタークォーターズで夫に結び固められ、ユタ州で亡くなりました。神殿で高祖母についてわたしが考えていたのは、儀式を行う必要があったからではなく、時間と空間を超えてこれらの儀式がいかにわたしたち二人をつないだかということでした。

子供の頃、わたしは高祖母と同じユタ州の町に住んでいました。また、その後、ウィンタークォーターズ、ノーブー、さらには彼女が生まれたイギリスの小さな村も訪れました。高祖母がとてつもない距離を旅したことと、わたしたち二人のあまりにも懸け離れた生活の違いに、わたしは胸を打たれました。

しかし、わたしたち二人の時代と場所と状況が違っていてもかかわらず、わたしは、結び固めの聖約と、高祖母の生涯について知ることで、彼女とつながっていると感じます。このつながりは、具体的に言えば家族歴史、そしてもっと大きく言えば神殿での礼拝を行う理由を明確にしています。



家族歴史の探求に携わることで、神の創造の広大さと壮大さを教えられます。また、このことから、キリストの贖罪が個人に憐れみ深く及ぶということを一層はっきりと知ります。

家族歴史を通して深まる愛

主は、御自分の子供たちのために創造された世界は「人にとって数え切れない。しかし、わたしにはすべてのものが数えられている。それらはわたしのものであり、わたしはそれらを知っているからである」と教えておられます（モーセ 1:35）。家族歴史と神殿活動は、わたしたちにイエス・キリストの救いの業に携わる機会を与えてくれます。¹ それに携わることは、わたしたちが家族や隣人、出会う全ての人に愛と憐れみを抱くことを学ぶ助けとなります。彼らは皆、わたしたちの兄弟であり姉妹だからです。²

先祖を思い出すことで、わたしたちは天の御父の計画と創造の範囲の広さを実感します。主は、わたしたちが試され、信仰を持つための場所を創造されました。しかし、死すべき世にいる間に神の聖約を全て受け入れる人はほんのわずかです。ですから、身代わりの業がもたらす憐れみは、主が御自分の全ての子供たちを愛しておられ、現世の状況に関係なく福音の完全な祝福を受け入れるかどうか、全員が選べる道を備えてくださっていることを、わたしたちに思い出させてくれます（2 ニーファイ 26:20 - 28, 32 - 33 参照）。

さらに、先祖の生涯について学ぶことで、わたしたちは、この世における事柄は必ずしも容易ではないこと、つまりこの墮落した世には落胆や不平等があることを思い出すことがで

死者の救いの教義について、預言者ジョセフ・スミスはこのように書いている。

「山々は喜び呼ばわりなさい。すべての谷よ、声高らかに叫びなさい。

すべての海と乾いた地よ、あなたがたの永遠の王の驚異を告げなさい。

川よ、小川よ、せせらぎよ、喜びをもって流れ下りなさい。

森と、野のすべての木々は、主をほめたたえなさい。

硬い岩よ、喜びの涙を流しなさい。

太陽と月と夜明けの星は、ともに歌いなさい。

神の子らは皆、喜び呼ばわりなさい。

永遠の創造物は、とこしえにいつまでも神の御名を
たたえなさい。」(教義と聖約 128:23)



きます。先祖の生涯について知り、彼らのために儀式を執行することで、神の愛の御腕が届かない人は一人としていないことも思い出すことができます(ローマ 8:38 - 39 参照)。

高祖母のマライアは、この真理が説かれるのを初めて聞いたとき、勇気づけられました。1840 年から 1841 年、ミシシッピ川や部分的に完成したノーブー神殿において、初期の身代わりのバプテスマが執行されたとき、彼女は自分の亡くなった姉のためにバプテスマを受ける機会を得ました。³ わたしはマライアに会ったことはありませんが、肉親のきょうだいに對する愛と、その愛が神殿の儀式によって死後も続くという知識を彼女と共有しています。さらにその知識を共有していることで、高祖母に対する愛が一層深まっています。

預言者ジョセフ・スミスが死者の救いという麗しく、憐れみ深い教義に圧倒されんばかりであったことは驚くに当たりません。彼は、この教義を「永遠の福音に属するすべての事項の中で最も栄光ある……事柄」であると述べました(教義と聖約 128:17)。「山々は喜び呼ばわりなさい。すべての谷よ、声高らかに叫びなさい。すべての海と乾いた地よ、あなたがたの永遠の王の驚異を告げなさい。川よ、小川よ、せせらぎよ、喜びをもって流れ下りなさい。森と、野のすべての木々は、主をほめたたえなさい。硬い岩よ、喜びの涙を流しなさい。太陽と月と夜明けの星は、ともに歌いなさい。神の子

らは皆、喜び呼ばわりなさい。永遠の創造物は、とこしえにいつまでも神の御名をたたえなさい。」(教義と聖約 128:23)⁴

熱い思いをもって姉の身代わりのバプテスマを受けに行ったマライアのように、他の初期の聖徒たちも同様に喜んでいました。初期の聖徒の一人、サリー・カーライルはこう記しています。「わたしたちが信じ、……こうして亡くなったすべての友人のためにバプテスマを受け、情報が得られる限り過去にさかのぼって彼らを救えることは、何と栄えあることでしょう。」⁵

全ての人のため、また一人のため

これらのことから分かるように、家族歴史は広範囲に及ぶ一方で、個人の必要にも合わせています。わたしたちは主の愛の広さだけでなく、その深さも知ります。主は個人を心にかけておられるからです。すずめが落ちるのを見ておられ、また 100 匹の群れから迷い出た 1 匹をお探しになる主は(マタイ 10:29; ルカ 15:4 参照)、わたしたちをひとまとめにではなく、一人ずつ贖われます。地上で教導の業を行われている間に人々を癒やされたときや、バウンティフルの神殿に集まった人々に祝福を授けられたときと同じです(3 ニーファイ 17 章参照)。

同様に、主は初期の聖徒たちに、各個人のために執行さ

れた身代わりの儀式について記録するための細かい標準を教えられました（教義と聖約 128：1－5，24 参照）。したがって、わたしたちは単なる名簿ではなく、個々の先祖を識別するために骨の折れる作業を行うのです。この作業を通して、わたしたちは神の憐れみと思いやり、そして個人の価値を少し実感します。

さらに、先祖の生涯を知ることで、わたしたちは彼らの弱点や欠点に関係なく先祖を愛するようになります。死すべき世の移り変わりが先祖の選びにどのような影響を与えたかを知るとき、彼らに同情する気持ちを抱きます。この過程を踏むことで、生きている人々、すなわち自分の家族に対しても、また神の全ての子供たちに対しても同じような愛を育む能力が磨かれます。この世に来て聖約と儀式を受ける機会を得なかった大部分の人も含めて、全ての人が天の両親の子供であることをさらに強く感じると、人生がこの世に生を受けた全ての人にとって「神……がお与えになった光をどのように用いたかに応じて」信仰と心の強さを試される期間であるということを理解するのに助けとなります。⁶

家族歴史活動が持つ、人を精錬する力は、わたしたち自身の愛の力を増すことができます。自分とはまったく異なる生涯を送った、何年も前に亡くなっている人々を愛するようになったら、神が自分たちにどれほど愛と憐れみを示しておられるか、気づかずにいられるでしょうか。そして、家族や隣人を愛し、彼らの欠点に対して思いやる心を持たないでいられるでしょうか。

ただ一つ残っている高祖母マライアの写真を人に見せると、気難しそう、あるいは無愛想に見えると言われます。わたしは高祖母を知っているので、すぐに彼女のことを弁護します。彼女が少女時代に、また幼い子供たちの母親としてセバーン川のほとりを歩いたことをわたしは知っています。

彼女が大海を船で渡り、その旅の途中で 4 人目の子供を出産したことを知っています。夫を戦地へ送り出し、夫の留守中に幼い子供を亡くしたことも知っています。アメリカ西部の砂漠の新しい居住地まで 1,000 マイル（1,609 キロ）を歩いたことや、熱心に働き、聖約を交わし、農業を営み、人々を愛したことを知っています。そして、わたしは高祖母について知ること、彼女や御自分の一人一人の子供に対して天の両親が抱いておられる愛を味わうのです。

家族歴史——その規模の大きさと憐れみが及ぶ範囲

家族歴史の中心は、パソコン操作ではありません。古い手書きの文字を解読したり、細かい注釈や引用文を作成したりすることではありません。これらは家族歴史の道具や作業ではありますが、家族歴史の中核でもなければ、末日聖徒が先祖を探求する大切な理由の一端でもありません。家族歴史の本質は、創造と贖いの及ぶ範囲が広大であることを教え、また同時に、キリストの贖罪が深い憐れみを通して一人一人に及ぶことを思い出させてくれることなのです。

先祖を探求することは、わたしたちの心と思いと同様の効果を及ぼすものとなり得ます。そのときに、「海辺の砂のように数え切れない」^{おふたかた}（モーセ 1：28）その全ての人々が天の両親の子供であり、御二方に愛され、知られていることに、わたしたちは気づきます。ジョセフが日の栄えの王国に入ることを「たぐいない美しさ」の門に入ると表現したことは決して不思議なことではありません（教義と聖約 137：2）。なぜなら、わたしたちが知っていて、愛している人々、すなわち神の広大な、一人一人に及ぶ愛によってわたしたちと同じように贖われた人々とともに救われること以上に、たぐいない、美しいことがあるでしょうか。わたしはその門で高祖母マライアと会える日を楽しみにしています。■

注

- 1.『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』473 参照
- 2.ラッセル・M・ネルソン長老は、エリヤの霊—すなわち聖霊の特別な現れ—の一つの働きは「家族が神聖な起源を有していることを証する」ことであると教えている。これは、現世の家族関係が神聖なものであることと、神の全ての子供たちが神性と可能性を持つ存在であることの両方を意味すると言ってよい。ラッセル・M・ネルソン「新たな収穫の時」『聖徒の道』1998 年 7 月号, 38 参照。リチャード・G・ス

- コット「死者を贖う喜び」『リアホナ』2012 年 11 月号, 93 も参照
- 3.1841 年、マライア・ハリスは姉のエディス・イーグルズの身代わりでバプテスマを受けた。末日聖徒イエス・キリスト教会, Nauvoo Proxy Baptism Records, 1840 – 1845 年, Family History Library US/Canada film 485753, アイテム 2, 第 A 巻, 42 ページ
 - 4.スミス家の親族の死が、死者の救いに関する答えを求めるジョセフ・スミスにどのような影響を及ぼしたか、詳しい言及については、リチャード・E・ターリー・ジュニア, “The Latter-day

Saint Doctrine of Baptism for the Dead” (BYU 家族歴史ファイヤサイド, 2001 年 11 月 9 日) を参照。

- 5.サリー・カーライルの言葉。スティーブン・ハーバー, *Making Sense of the Doctrine and Covenants: A Guided Tour through Modern Revelations* (2008 年) 470 – 471 で引用
- 6.『教え——ジョセフ・スミス』404。申命 8：2；モロナイ 7：16；教義と聖約 76：41 – 42；127 章；137：7 – 9；アブラハム 3 章も参照



十二使徒定員会
ニール・L・
アンダーセン長老

神殿と科学技術のある 「自分の時代」

今は皆さんの時代です。皆さんが先祖に
もっとよく心を向け、数百万の親族のために
救いの儀式を行う時代です。

皆さんは、自分はどうしてこの時代に地上に
送られたのだろう、どうして他の時代では
なかったのだろうと不思議に思ったことは
ありますか。モーセの傍らに立ったり、イエスの母マ
リヤの友達だったりしたら、どうだったでしょうか。
預言者ジョセフが通りを歩いている時代にノーブーに
住んでいたら、あるいは他の10代の若者たちととも
にソルトレーク盆地の新しい住まいを目指して手車を
引いたり、押したりしながら何千キロもの距離を旅し
たら、どうだったでしょうか。

わたしたちは時々、過去の時代や他の場所について
考え、「わたしはなぜそこにいなかったのだろうか。ど
うして今ここにいるのだろうか」と思うことがあります。





皆さんに
チャレンジをします。
神殿で受ける
バプテスマの数と
同じ数の名前を
準備するという目標を
個人的に
立ててください。

自分の生きている時代や場所について疑問に思った人はあなたが初めてではありません。アメリカ大陸に住んでいた預言者も同じことを自問しました。その人はニーファイといい、モルモン書の最初に出てくるニーファイではなく、ヒラマン2世の息子、すなわち預言者であった息子アルマのひ孫のニーファイです。

ニーファイの住む社会では、正しいことよりも富と権力と人気の方が大切でした。多くの人々は公然と戒めを破りました。うそをつき、人の物を奪い、純潔の律法を無視しました。戒めを守る人はあざけられ、不当な扱いを受けました（ヒラマン7:4-5, 21:8:2, 5, 7-8 参照）。

「ニーファイはそれを見ると、悲しみに胸が詰まり、苦しみもだえて叫んだ。

『おお、わたしの先祖のニーファイが初めてエルサレムの地からやって来たその時代にわたしも生きていて、約束の地で先祖のニーファイと一緒に喜ぶことができたならよかったのに。当時のニーファイの民は容易に勧告に従い、神の戒めを確固として守り、罪惡を犯すように誘われるのは遅く、主の御言葉を聴くのは早かった。

まことに、もしわたしがその時代に生きていたら、同胞の義を喜んだことだろう。』」（ヒラマン7:6-8）

ニーファイは神の偉大な預言者でした。それでも、自分はどうしてその時代に地上に生まれたのだらうと一瞬疑問に思ったのです。それほど遠くない将来に救い主が地上に来られることは知っていましたが、その瞬間には、間もなく起きるすばらしい出来事もかすんでしまったようです。

彼がそう語ってからわずか20年後、暗くならない夜が来て、イエスがベツレヘムでお生まれになります。55年もしないうちに、復活され、栄光を受けた救い主が、天から降って来てバウンティフルの地の聖徒たちに御姿を現されます。ニーファイの息子もそこにいて、救い主に名を呼ばれ、西半球の十二使徒の一人として聖任されます。キリストに招かれて一人一人前に進み出て、主の手と足の釘跡に触れた2,500人の聖徒の中には、ニーファイの娘たちや息子たち、孫娘たちや孫息子たちもいたと思われます。救い主から一人一人祝福を受け、火に包まれたり、天使から恵みを施されたりした子供たちの中に、ニーファイ

のひ孫がいたことも考えにくいことではありません。義になかった自分の家族や友人の未来の姿がニーファイにはっきりと見えていたら、別の時代に生きたいとは思わなかったでしょう。

幸い、ニーファイは義になかった生活を続け、勇気をもって人々を教え、偉大な奇跡を行い、預言者サムエルと同じように、救い主が間もなく来られることを預言しました。主は自らの言葉を通して、ニーファイをとこしえに祝福すると約束されました（ヒラマン 10 – 11 章；16 章参照）。

ニーファイは自分が生きた時代と場所について疑問に思ったこともありましたが、最後に、「見よ、わたしはこの時代を自分の時代と〔する〕」と力強く語っています（ヒラマン 7：9）。

愛する若い兄弟姉妹、今は皆さんの時代です。皆さんは救い主が地上に再び来られる前の、最後の時代に生きるために選ばれました。主がおいでになる正確な日や年は分かりませんが、主の再臨に先立つしは容易に見ることができます。¹

救い主がニーファイの民を訪れられる日に備えるうえで自分が大切な役割を負っていることに気づいたニーファイのように、いつかわたしたちも過去を振り返るときに、救い主の再臨のために世を備える自分の時代に生きたことは栄えある祝福だったと思うことでしょう。わたしたちの大切な目的や栄光あふれる未来の前に立ちはだかる困難と障害の先を見通しましょう。わたしたちは皆、ニーファイの言葉に倣ってこう言いましょう。「この時代を自分の時代とする」と。

現代が皆さんの時代であるなら、主は皆さんに何をしよう望んでおられるのでしょうか。まず、イエス・キリストの御名^{みな}を受ける必要があります。主について、そして主の愛^{いつく}と言いつくせない主の慈しみについて学び、いつも主の戒めを守ることを決心してください。救い主に従い、神を愛し、周りの人々に奉仕しなければなりません。わたしたち全員がキリストの弟子として生活し、御霊^{みたま}の導きを受け、周りの人々を高める特権を生かすことができます。



神聖な務め

一部の経験は、特定の世代のために取っておかれています。皆さんの神聖な務めの中で、他の世代にはなかった一つの務めについてお話しします。

世界各地に神殿ができたのは最近のことです。2014年3月2日にアリゾナ州ギルバート神殿、2014年5月4日にフロリダ州フォートローダーデール神殿が奉献され、今や全世界の143の神殿で儀式が執行されています。わたしが子供のとき、全世界の神殿数は13でした。

妻のキャシー・アンダーセン姉妹は合衆国のフロリダで育ちました。彼女が5歳のとき、両親は永遠の結び固めを受けるために家族を神殿に連れて行きました。ソルトレーク神殿まで2,500マイル(4,023キロ)を6日間かけて車で行きました。現在、彼女のフロリダの実家から見て、ソルトレーク神殿よりも近い神殿が47あります。

トーマス・S・モンソン大管長は教会の青少年に、しばしば神殿に参入して死者のためのバプテスマを行うよう勧めてきました。「さて、10代の若い友人の皆さん、常に神殿

を視野に入れておきましょう。神殿のドアを通して、神聖で永遠の祝福を受ける妨げとなることを一切してはなりません。死者のためのバプテスマを受けるために定期的に神殿を訪れている人は、朝早く起きて、学校へ行く前にバプテスマに参加することを勧めます。一日の最初にすることとしてこれ以上にすばらしいことはありません。」²

皆さんが主の預言者の呼びかけに応えたおかげで、毎年、幕の向こう側にいる数百万の人々が自分のバプテスマを受け入れる機会を得ています。かつてこの地上に住んでいた人々の中で、皆さんのように、主の宮のドアに入り、皆さんより先にこの世にきた人々の救いを手伝うという偉大な特権を受けた世代は他にありません。

皆さんもよく知っているように、神殿の神聖な業を成し遂げるうえで不可欠な**最初**の手順があります。それは、わたしたちより先にこの世にきた親族を探して見つけることです。

預言者ジョセフ・スミスを最初に訪れたとき、モロナイはジョセフに、「子孫の心はその先祖に向かうであろう」と教えました(教義と聖約2:2)。預言者ジョセフは後に、教会員

預言者ジョセフは、
この業を
世代と世代をつないで
家族を一つにする
「固いつながり」と
述べました。
(教義と聖約128:18)





が「シオンの山において救う者」とならなければならないことを説明し、このように尋ねました。「しかし彼らはどのようにしてシオンの山において救う者となるのでしょうか。神殿を建て、……亡くなった全ての先祖のために行ってあらゆる儀式を受け〔る〕……のです。ここに先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖につなぐ鎖があり〔ます〕。」³

預言者ジョセフは、この業を世代と世代をつないで家族を一つにする「固いつながり」（訳注——英語で“welding link”）と述べてきました（教義と聖約 128：18）。ジョセフの時代、物理的に溶接した鎖の環（welding link）は高熱の炉の中で二つの金属片を柔らかく溶かし、打ち伸ばせる状態の間に結合した後、冷やし固めて作られました。こうして、決して切れない鎖となるのです。わたしたちを永遠につないで一つにする、強力で霊的な固いつながりの大切さは、聖文にはっきりと述べられています。「彼らなしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはないのです。」（教義と聖約 128：18）

過去において、家族の名前を見つけ、記録

し、神殿に持って行くというこの作業は、おもに教会の年配の会員の務めでした。なぜでしょうか。莫大な時間と労力が必要だったからです。大きなリールのマイクロフィルムに収められた記録を確認する作業から始めることがしばしばでした。日付や場所を地道に確認したり、持ち出し禁止の分厚い歴史書を調べたり、遠隔地の墓地を訪れたりすることを意味しました。

インターネットで先祖を見つけることができるようになったのがわずか数年前からで、この数か月の間にも非常に大きな前進がありました。今後はさらに見つけやすくなるでしょう。

神殿参入に熱心になったのと同じように、これから何か月か先、何年か先には、皆さんは名前を神殿に持って行くことにもすっかり長けていることでしょう。

皆さんにぜひお勧めします。神殿で受けるバプテスマの数と同じ数の名前を準備するという目標を個人的に立ててください。神殿の儀式を必要とする人々を探し出し、彼らについて知り、彼らがこれらの神聖な儀式を受けるのを助けることで、力がもたらされます。このようにして皆さんは「シオンの山において救う



わたしたちは、
自分より先に
この世に来た人々と
後に来る人々など、
自分の家族の観点から
自分を見詰めると、
自分が
その全員をつなぐ
すばらしい環の
一部であることに
気づきます。

者」となるのです（オバデヤ 1：21，教義と聖約 103：9 参照）。霊的な感性を通してしか理解できない喜びと満足感があります。わたしたちは永遠に先祖につながれるのです。

家族によっては、何世代もの間教会に集っていて、直系先祖の神殿の業の多くが終わっていることがあります。わたしは、2013 年に初めてインターネット上の扇形チャートで先祖の情報を見ました。わたしが名前をもらった曾祖父ニールス・アンダーセンや、一族の中で初めてモルモン書の預言者にちなんで名付けられた高祖父モロナイ・ストックスの名前もありました。インターネット上で家族の写真もたくさん見ることができました。皆さんは曾祖父母の顔を見たことがありますか。

一族を見つける

皆さんのチャートがわたしほど完成していなければ、第一になすべきことは、できる限り空白を埋めることです。毎月、さらに多くの情報を入手できるようになっています。

皆さんのチャートがわたしのようにある程度完成していても、皆さんのできる大切な作業がまだあります。作業は尽きることがあり

ません。救い主が再臨されても、まだ完了はしません。自分のチャートが完成しているように思われるときは、他の人々が彼らの家系を見つけるのを助けたり、わたしたちのファミリーツリーに近い人々を探したりします。これを「一族を見つける」活動と呼びます。

どうすれば一族を見つけられるでしょうか。二つの方法があります。

まず、自分のチャートを見て、5 代前の先祖と関連のある人々を探します。例えば、わたしの場合、祖母のフランシス・ボーエン・エバンスの情報を見て、彼女の兄弟姉妹の家族を見ます。彼女には 5 人の姉妹と 2 人の兄弟がいました。このようにして一族を見つけることができます。

一族を見つける二つ目の方法は、周りの人々を助けることです。『わたしの家族』という特別な冊子から始めます。家族歴史を始めたばかりの家族なら、冊子に情報を書き込みます。あるいは、わたしのようにある程度系図を調べているなら、この冊子を新会員や、あなたの家族ほど教会の活動に携わっていない人のところへ持って行き、彼らが一族を探すのを手伝います。そうするとき、皆さんは彼らが神

殿に他の人々を連れて行くのを助けていることになります。これらの人々は皆さんの兄弟姉妹ですが、「一族」と呼ぶこともできます。

わたしたちは皆、天の御父の家族における兄弟姉妹です。家族は無作為に組織されているものではありません。モンソン大管長はこう述べています。「先祖のことを知ると、自分についても何かしらの発見があります。」⁴

わたしたちは、自分より先にこの世にきた人々と後に来る人々など、自分の家族の観点から自分を見詰めると、自分がその全員をつなぐすばらしい環の一部であることに気づきます。先祖を探し出して神殿に名前を持って行くとき、わたしたちなしでは得られないものを彼らに提供しているのです。そうすることで、わたしたちは先祖につながれ、主は御霊を通してわたしたちの行う業に永遠の重要性があることを教えてください。

モンソン大管長は次のように語っています。「神殿のもたらす永遠の祝福を理解している人は、これらの祝福を受けるためにいかなる犠牲、いかなる代価、いかなる苦勞もいとみません。」⁵

わたしは大管長の言葉に付け加えて、わたしたちよりも先にこの世を去った家族のためにわたしたちが聖なる神殿で行う儀式を彼らが受け入れるとき、彼らに天の祝福と力が待ち受けていると申し上げます。彼らは死すべき生涯を終えましたが、今も生き続けています。わたしたちは「シオンの山における救う者」となり、彼らと永遠につながれるのです。

皆さんは神殿と科学技術の時代に生まれました。今は皆さんの時代です。皆さんが先祖にもっとよく心向け、何百万もの親族のために救いの儀式を行う時代です。今は救い主の再臨に備える皆さんの時代です。

皆さんが儀式に必要な人々を見つけること、そして神殿で彼らの儀式を行い始める

ことの両方によってこの神聖な業に貢献しようとするとき、救い主に関する皆さんの知識と信仰が増し、幕のかなたでも命が続くというさらに確固とした証^{あかし}を得られますように。わたしは幕のかなたでも人が生き続けるということを知っています。

イエスがキリストであられ、わたしたちの救い主および贖^{あがな}い主であられることを証します。主の栄えある贖罪^{しよくざい}により、神殿で行われるこれらの儀式は永遠の効力を持つのです。■

2014年2月8日、青少年のための「家族発見の日」ディボーションナルの説教「一族を見つける」から。このディボーションナルはユタ州ソルトレーク・シティーにおいて家族歴史カンファレンス「ルーツテック 2014」と併せて開かれました。詳細については、lds.org/go/Andersen215300 にアクセスしてください。2015年2月14日に話された今年の説教を視聴するには、lds.org/discoverfamily にアクセスしてください。

注

1. ダリン・H・オークス「再臨への備え」『リアホナ』2004年5月号、7－10 参照
2. トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」『リアホナ』2011年5月号、93
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』473
4. トーマス・S・モンソン「変化の時代にあって変わらぬ真理」『リアホナ』2005年5月号、21
5. トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」92

あなたのファミリーツリーを作る

1. FamilySearch.org と家族歴史情報に関するその他の資料を使って、あなた自身の先祖の名前を一人以上見つけてください。その情報を FamilySearch.org または小冊子『わたしの家族——わたしたちを一つにする思い出』に記録しましょう。
2. これらの名前を神殿の儀式のために FamilySearch.org で提出してください。あなたのワードまたは支部の家族歴史相談員があなたを助けてくれるでしょう。
3. これらの名前を神殿に持参するか、他の人に委任して彼らが必要な儀式を執り行えるようにしてください。可能であれば、家族で神殿に参入してください。
4. あなたの家族歴史の知識や経験を分かち合ってください。他の人にこれらの手順について教えてください。

人生の旅が 終わる前に

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

92歳の父ポール・ロムニーが日曜の午後どこに行ったか心配する必要は、まったくありません。ユタ州ソルトレーク・シティーにある自分のワードで礼拝堂を片づけているのですから。この片づけは1時間余りかかります。

歩行器を押して通路を進み、次の列に行くときには座席に寄りかかります。紙くずを拾ったり、賛美歌集をきちんと並べたり、カーペットの上にこぼれているシリアルやパンくずを拾い集めたりします。これは、1934年に執事に聖任されて以来、わずかな例外を除いて、父が毎週日曜日にやってきたことなのです。

礼拝の備え

「わたしがこれをするのは、主を愛していることを示すためです」と父は言います。「礼拝堂がきれいだと、気持ちよく主を礼拝できますから。」

執事だった頃、自分の義務にはワードの物理的な必要を満たすことが含まれるということをポール・ロムニーは学びました。こう言っています。「それを行う方法の一つは、集会後の整理整頓だと考えたのです。そこで、とにかくそれをするようになりました。以来ずっとそうしています。」正式な割り当てや召しではないの

ポール・ロムニーは、礼拝堂を片づけることによって主への愛を示しています。

よく堪え忍ぶ人は、
時とともに
信仰が
深くなります。

ですが、ときどき土曜日に来て、集会所の掃除の割り当てを受けた人を手伝ってきました。自分の子供が手伝うこともあります。何年も前、ビショップリックの責任にあったときには、一緒に掃除するよう執事に働きかけました。

しかし、たいいていの場合、その日の最後の集会が終わるまでただ待っていて、終わると、秩序の家を維持するために自分にできることを黙々と行います。そして、これを毎週日曜日に忠実にやっているのです。

父の模範は、どんな状況でも奉仕する方法は常に見つかるということ^{けいけん}をわたしに教えてくれました。敬虔さを教え、礼拝に備えることを教えてくれました。そして、父のおかげで、人生の旅の先輩たちから、誰でも多くを学ぶことができることに気がついたのです。

役割の変化

同様の教訓は、数軒先に住む隣人からも学びました。ラリー・モーガン(97歳)と、その妻エリザベス(94歳)です。これまで夫と妻、父親と母親、オランダでの夫婦伝道など、様々な役割を二人で上手に果たしてきました。ラリーは72歳のときにビショップリックの顧問に召されました。当時、近隣には夫に先

立たれた女性が79人おり、ビショップから割り当てを受けて、ラリーはエリザベスと一緒にその全員を訪問しました。

40年以上にわたって、ラリーとエリザベスの子供たち、そして、今では孫たちとひ孫たちは、断食日の夕方に集まって、断食を解きます。ラリーはこう言います。「家族が集まって楽しく過ごしてほしかったのです。それに、食べることは誰でも好きですから。わたしたちは麦をたくさん貯蔵しています。それを粉にひいてワッフルを作るんです。出来上がると皆、おなかがいっぱいになるまで食べますよ。」そんな簡素な食事を皆で食べながら、しっかりとした家族のきずなを育んできました。


現在、料理は子供と孫がしています。エリザベスは認知症ですが、家族がそばにいることは分かります。その場にいる一人一人に「愛してる」と何度も言います。食事が終わって皆が帰ると、ラリーが聖文や教会

機関誌の記事を大きな声で読んでくれます。それを聞くのがエリザベスは好きです。夫がそばにいたことが分かるだけで、エリザベスは安心します。

2年ほど前、ラリーは転んで脊椎を損傷し、それがもとで歩けなくなってしまうしました。こう言っています。「なぜわたしが、と考えて時間を無駄にしたりはしません。神権の祝福を

ラリー・モーガンとエリザベス・モーガンは、
お互いをいたわり合う決意が変わらぬことを
示しています。





受け、再び歩けるようになると言われました。生きている間に歩けるようにならなくとも、^{あがな}贖いと復活のおかげでまた歩ける時が来ることを知っています。天の御父にお任せすればいい、ということ^{みこころ}を学びました。わたしたちは、御父の御心を受け入れるとき、御父の助けに頼ることができます。」


物の見方の変化

メルル・クリステンセンには、ユタ州ブリガム・シティのケアハウスで初めて会いました。わたしたち家族の友達^{みこころ}の祖母で、101回

目の誕生日をもうすぐ祝うことになっていました。メルルは思い出の本や写真がたくさん飾ってある自分の部屋に座っていました。見せてくれた2枚の写真が特に印象に残っています。

1枚目の写真は随分昔に撮ったもので、メルルの娘を含むセミナーの生徒の集合写真でした。メルルは言います。「1列目には娘たちの教師のボイド・K・パッカーがいるんですよ。とても若く見えますが、それはそれは良い先生でした。」現在彼は、十二使徒定員会会長です。

メルルは若い頃、ポリオにかかりました。こう言っています。「10代の女の子には耐えがたいことでした。その困難を乗り越えられるだけの信仰を育まなければなりません。でも、そのとき主が助けてくださいました。今でも助けてくださっています。」若い頃ポリオにかかると、年齢とともに筋肉の萎縮や全身疲労などのポリオ後症候群の症状が出る事が多く、その対処に苦労します。メルルの場合もそうでした。



メルルは疲労を感じると、救い主は「御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」「御自分の民の苦痛と病を身に受けられる」という、アルマ書第7章11節から12節にある言葉を思い出します。メルルはさらにこう言います。「自分が経験している苦労を主は御存じだということを信じるのです。日々努力してください。祈り、教会に行き、人に親切にするのです。試練を乗り切るのに必要なのは、このような小さなことの積み重ねです。」

メルルがスクラップブックから見せてくれた2枚目の写真は、5人の娘の



望みの受け継ぎ

「永遠の命の賜物^{たまもの}を受け継ぐ道のどの辺りにいようと、皆さんはより豊かな幸福へと通じる道を多くの人々に示す

機会が与えられています。神と聖約を交わす選択、あるいはそれを守る選択をするとき、皆さんは自分の模範に従う人々に希望をもたらす受け継ぎを残すかどうかの選択をしているのです。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング
「希望をもたらす貴い受け継ぎ」
『リアホナ』2014年5月号、22

メルル・クリステンセンは、愛する者たちと再び会うことができるという知識に喜びを感じています。

うち3人が写っているものでした。メルルの子供は全員女の子で、そのうちの3人は1936年に生まれた三つ子です。ブリガム・シティーに初めて生まれた三つ子でした。「三つ子が生まれるなんて、当時はごくまれなことだったんです」とメルルは言います。医学はあまり発達しておらず、そのうち二人には生まれつき心臓の欠陥がありました。そのため一人は1958年、もう一人は1972年に亡くなりました。シャロンとダイアンという子です。心臓の病気のなかったジャニスは、がんのため1992年に亡くなりました。

「わたしは子供たち全員を愛していますし、子供たちの夫や、孫たち、ひ孫たちを愛しています」とメルルは言いますが、26年前に夫デバールを亡くし、生きていれば今年の春で79歳になっていたはずの三つ子にも先立たれて寂しい思いをしています。

メルルは、アルマ書の聖句をまた読みます。「また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。」(アルマ7:12)

「わたしは、救い主が死に打ち勝たれたことを知っています。そのおかげで夫や三つ子をはじめ、家族全員に再び会えるのです。」その確信は日ごとに強くなるとメルルは言います。

クリステンセン姉妹は、この記事が書かれた後の2014年9月に亡くなった。

一緒に歩く

スイスのローザンヌに住むアルフ・パスロブと妻ルセットは、一緒に歩くのが好きです。お気に入りの散策コースの一つは、そびえ立つアルプスを望



ルセット・パスロブとアルフ・パスロブは、一緒に歩んだ教会での人生を振り返っています。

む内陸の海、レマン湖のほとりです。1、2年前の夕方、このほとりを歩いていて、昔のことを思い出しました。

「思春期になっても、わたしは真理を探し求めていました。神がいるならば、生ける預言者も地上にいるに違いない。いつもそんなことばかり考えていました」と78歳のアルフは言います。

高校卒業後、進学した学校に通い始めた頃、無料英語クラスに行ったらどうかと友達に勧められました。末日聖徒の宣教師が教えているということでした。クラスの一つに出たところ、レッスンの後で、宣教師から教会に誘われました。

アルフの記憶では、「初めて日曜学校に出ると、御父と御子と聖霊は別個の御方だと教えていました。教師は、現代の預言者ジョセフ・スミスの教えのおかげで、わたしたちは神について多くのことを知っており、生ける預言者は現在もいると言いました。わたしは驚きました。そのクラスでは、わたしが長い間考えていたことを話していたのです。」アルフはすぐに教会に入りました。「それ以来、地上に預言者がいることに、日々喜びを感じています。」

80歳のルセットは、子供時代に第二次世界大戦を経験しました。こう言っています。「14歳で働きに出な

ければならず、まともに教育を受けることができませんでした。でも、教会に行けば勉強を続ける機会があることを知ったのです。」専任宣教師として奉仕した後、アルフと交際するようになりました。二人は神殿で結婚し、子供を育て、今では、二人で歩んだ人生の旅路を振り返っています。ルセットはワードの初等協会会長を14年間で、アルフはステーキの高等評議員を32年間務め、神殿には旅程を組んで定期的に参入し、子供や孫と語り合い、若いときに受け入れた真理にひたすら感謝してきました。

ルセットは言います。「わたしたちは肩を並べて人生を歩むという祝福を受けてきました。一歩進むごとに、わたしたちの信仰は強くなってきたのです。」

わたしより年長のこのような友人たちから、わたしは多くのことを学んでいます。ラリーとエリザベスは尊厳と主の助けをもって人生の移行行く役割を果たすことを教えてください、メルルは最後まで堪え忍ぶ信仰は救い主に対して現在持っている信仰の上に築かなければならないことを示してくれます。そして、パスロブ夫婦は、日々福音に喜びを感じています。これらの教訓は全て、人生の旅路を終えるまで、わたしを支える力となります。■

医師それとも長老？

高校を卒業したとき、少なくとも2年待たなければ伝道に出られないことは分かっていました。そこでわたしは大学に進学することになりました。自分の計算では、必死で努力すれば、6年ぐらいで医大を卒業できるはずでした。伝道に出るのはその後に出ようと思いました。

24歳で医大を修了後、研修医となり、医学の分野でさらに研鑽^{けんさん}を積みしました。その間、わたしにはジレンマがありました。やはり伝道に出るべきか、それともこのまま働き続けるべきか。両親、(最近伝道から帰還したばかりの)兄、ビショップ、地元の伝道部長会顧問は皆、伝道に出よう強く勧めました。

彼らの言っていることは正しいと思いましたが、医師としての有望な前途を先送りするのは難しいことでした。わたしは靈感を求めて祈り、断食しました。また祝福師の祝福からも導きを求めました。そこには、専任宣教師として伝道に出るようにとの勧めと、その結果としての祝福が約束されていました。

ある日のこと、研修先からバスで帰宅する途中、思いがけなくステーク祝福師に会いました。二人して、同じ停留所で降り、不思議なことに、同じ方向に歩き始めました。祝福師はわたしが教会員であることに気づきました。

一緒に歩いていると、彼はわたしの人生計画について尋ねてきました。わたしは自分が医師であり、仕事で経験を積むことと伝道に出ることのどちらを選ぶべきかで悩んでいる、と答えました。彼は断固とした口調で、伝道に出て主に仕えるべきだと告げ、そう

すれば結果的に祝福を受けるはずだと付け加えました。彼の答えは、わたしには主から与えられた答えのように思えました。

その瞬間、次の聖句が心に思い浮かびました。「まず神の王国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。」(3 ニーファイ 13:33)

わたしはそれが主の答えだと確信しました。もはや何のためらいもなく、仕事の機会を後回しにし、伝道に出るこ

とにしました。2年間伝道に出ている間に、医療業務を忘れてしまうだろうというのが医療仲間の考えでした。嫌みなことも言われましたが、わたしの決心は揺らぎませんでした。

「医師」の肩書を捨て、コンゴ民主共和国キンシャサ伝道部で2年間伝道しました。

5年後、わたしは伝道にともなって授かったかけがえのない祝福を書き出しました。何よりも大きな祝福は、妻を見つけたことです。彼女は忠実な教会員で、わたしに最高の喜びを与えてくれます。二人の子供も授かりました。わたしたち家族は、永遠に結び固められています。神殿で、わたしたちは代理人として、亡くなった先祖のための儀式を行ってきました。安定した仕事があり、家族として自立しています。これらは主から頂いた数々の祝福のほんの一部です。

天の御父は決して偽りを語られないこと、また御父を信頼し、その戒めを守るならば、御自分の約束をすべて成就されることを、わたしは知っています。■

ムカンディラ・ダニー・カララ(リベリア)

皆、 伝道に出よう
強く勧めましたが、
医師としての有望な前途を
先送りするのは難しいことでした。



救い主を知るようにになりました

高校1年生のとき、わたしは新約聖書を初めから終わりまで読もうと決心しました。放課後、また週末になると、わたしは我が家の2階で、救い主の言葉を読み、その奇跡と生涯について書かれた内容を読みました。

まだ若かったために、聖書の言葉を理解できないことが何度もありましたが、わたしはイエス・キリストを知ようになりました。イエス・キリストが神の御子であり、わたしたちの罪を贖^{あがな}われるために遣わされたことを学びました。イエス・キリストが、わたしのような弱点のある普通の人たちとともに歩き、そのような人たちに語りかけ、祝福をお与えになったことを学びました。

パウロの手紙に出てくる複雑な文章やヨハネの黙示録に出てくる難解な言葉を読んで混乱することもありましたが、彼らの教えは真実であるという気持ちをいつも感じることができました。聖文を読んだおかげで、わたしは学校でつらいことがあってもそれを乗り越え、重大な決断を下すときには導きを受けることができました。

何年もたって、伝道に出る準備をしているとき、わたしは奉仕することに対する自分の動機について疑問を抱きました。自分の証^{あかし}や自分自身に、これと言って特別なものが何もないと感じたのです。自分はひょっとして、福音を教えるために熱心に働きかけてくれた両親や指導者への義務感で伝道に出ようとしているのではないかと思いました。わたしが伝道に出ない方が、主のためになるのではないかとさえ考えました。

ある日のこと、モルモン書を読んでいるときに、アビダナイの言葉に心を打たれました。

「この御方は連れて行かれて、十字架につけられ、殺され……てしまう。

こうして、神は死の縄目を断って死に対して勝利を得……られる。……

さて、わたしはあなたがたに言うが、**だれが御子の子孫であると名乗るであろうか。**」(モーサヤ 15:7-8, 10。強調付加)

わたしは最後の行を何度も繰り返し読み、こんな聖文が前からここにあったらうかと思いました。新約聖書を読むことによって、わたしは救い主の生涯と、救い主と歩みを共にした世代の人々について知ることができました。しかし、救い主と同じ世代の人々は、現代の人々を訪れて、主の愛と贖罪^{しよくざい}、主の教会について教えることは

できません。では、わたしが主に対するわたしの証を分かち合わないとしたら、それを正当化することができるでしょうか。

主はわたしが受けた福音の良い知らせを他に伝えるよう望んでおられます。わたしは福音が真実であると知っていますし、聖文を読むことで、学んだ真理を伝えたいと願っています。

この経験から間もなくして、わたしは伝道に出ました。わたしが奉仕したいという望みを持てたのは、若い学生のときに、聖文を読んで救い主について学ぶことができたからです。■

ブライアン・ノックス (アメリカ合衆国、アリゾナ州)

伝道に出る

準備をしているとき、わたしは奉仕することに対する自分の動機について疑問を抱きました。





—— ニーズは
—— 回復された福音を
すぐに受け入れてくれましたが、
バプテスマを受けるよう
勧めたときには
ためらいました。

あなたの足に感謝しています

特に人の関心を引くような足ではない
はずなので、ボリビアで最近改宗
したニーズが、わたしの足に感謝してい
ると言ったときには、少し戸惑いました。

「皆さんの足に感謝しています。」彼
女はバプテスマを受けてから数週間
たった頃、わたしたちにそう言いました。

ニーズは回復された福音をすぐに
受け入れましたが、バプテスマを受ける
よう勧めたときにはためらいました。

彼女はつらい皮膚疾患を患っていると
説明してくれました。皮膚が冷たい水に
触れると、無数の針に刺されているよう
な感覚に襲われるというのです。そのよ
うな病気を抱えていたので、野菜を洗っ
たり、洗濯物を手洗いしたりといった日
常的な仕事すらできなかったのです。

わたしたちは、バプテスマフォントの水
は温めることができると説明し、温水でバ
プテスマを受けられるとニーズに伝えま
した。彼女は明るい表情を浮かべ、クリ
スマスの日にバプテスマを受けることにし
ました。同僚とわたしは支部会長に彼女
の皮膚の病気について話しました。支部
会長は午後のバプテスマに間に合うよう、

フォントの水は温めておくと言いました。

ところが、わたしたちがバプテスマのた
めに教会堂に着いたまさにそのとき、フォ
ントは冷たい水でいっぱいになったところ
だったのです。支部会長は取り乱し、連
絡ミスで、バプテスマの水が温くなるに
は相当の時間がかかると説明しました。

同僚とわたしは、ニーズがその日に
バプテスマを受けたいと望んでいること
を知っていました。また、主も同じこと
を望んでおられるという確信がありまし
た。わたしたちは誰もいない部屋を見
つけて、ニーズがバプテスマを受けら
れるよう、主に助けを祈り求めました。

祈った後で、わたしたちは慰めを感じ、
バプテスマ会を進めることにしました。
儀式の前の話者はすばらしいメッセージ
を分かち合ってくれましたが、次の言葉
を聞いた瞬間に不安な思いがよみがえり
ました。「ネルソン長老が、これから
ニーズ姉妹にバプテスマを施します。」

わたしは不安な思いを表に出さない
ように努めながら、ひどく冷たい水の中
に恐る恐る足を踏み入れました。ニー
ズもわたしに導かれて、水中に足を踏

み入れました。わたしは最悪の事態を
覚悟していましたが、ニーズは悲鳴を
上げることも、苦痛の表情を浮かべるこ
ともありませんでした。階段を静かに降
りて、わたしにほほえみかけたのです。

バプテスマの祈りの後で、わたしは彼女
の体を冷たい水に沈めました。水中から体
を引き起こしたとき、彼女はにこやかな笑
顔を浮かべていました。わたしは感謝の
念でいっぱいになりました。わたしにとっ
て、彼女のバプテスマは奇跡だったのです。

ニーズに最後に会ったときに彼女が口
にした言葉で、足に興味をもたれたときの
わたしの戸惑いは解消されました。彼女は
こう言ったのです。「あなたの足に感謝し
ています。わたしの家のドアまであなたを
運び、わたしに真理を携えて来たからです。」

わたしは、イザヤの次の言葉を聞くたび
に、ニーズと、彼女の素朴な信仰、そして
感謝の言葉を思い出します。「よきおとず
れを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝
え、救を告げ、シオンにむかって『あなた
の神は王となられた』と言う者の足は山の上
にあって、なんと美しいことだろう。」(イ
ザヤ 52:7。モーサヤ 12:21 も参照) ■

ニコラス・ネルソン (アメリカ合衆国、テキサス州)

忠実さを表す足跡

ソルトレーク神殿の反射池（神殿が水面に映る池）、噴水、歩道を含む、ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアに、足跡一つつくことなく、降ったばかりの雪で覆われている光景を写真に撮りたいと、わたしは随分前から願っていました。足跡のついていない降ったばかりの雪の写真を撮るには、夜のうちに雪が降り積もった日の早朝にテンプルスクウェアに着いていなければなりませんでした。

ある夜、一晩中雪が降るという予報があり、わたしは翌朝に備えました。テンプルスクウェアの用地管理人が歩道の雪かきを始めるのが午前5時だったので、目覚まし時計を午前3時にセットし、撮影のための機材一式を準備しました。

翌朝、雪かきがされていない道路に車を走らせ、午前4時15分、テンプルスクウェアに着きました。雪はまだ降っていました。わたしはテンプルスクウェアの周囲をぐるっと回り、駐車ができて写真が撮れそうなところを探しました。

最初にテンプルスクウェアの周囲を回ったときにあることに気づきました。ソルトレーク神殿の入り口へと続く通路は降ったばかりの雪で覆われ、足跡が一つもついていませんでした。完璧な写真が撮れると確信しました。胸の高鳴りを覚えながら、わたしは駐車場所を見つけるために、その区画をもう一度ぐるっと回りました。

ノース・テンプル・ストリートを東に進めば、通路に近い場所が見つかると思いました。しかし、いつの間にか、駐車できる場所がなくなってしまう、神殿の入り口へと続く通路近

くに戻っていたのです。

赤信号で止まったとき、右を見ると、降ったばかりで足跡のついていない雪が目にとまりました。ところが左にあるカンファレンスセンターに目を向けたとき、きちんとした装いの年配の女性が、降るしきる雪の中を神殿の方へ歩いて行く姿に気づきました。

「これは困った」と思いました。「写真が撮れなくなる。」

その女性がわたしの車の前を横切ったとき、わたしは、やがて台なしになる通路の方に目を向けました。すると、別の姉妹がすでに通路を歩き、神殿の入り口に向かっているのが見えました。最初の姉妹の方へ再び目を向けると、彼女ももう通路を歩いていました。靴や足首に雪をまつわりつかせながら、

彼女は最初の姉妹の足跡をたどっていました。彼女はゆっくりと、しかし確実に通路を進み、ゲートを通り過ぎ、神殿の入り口に入って行きました。

自分が目にしている光景についてよく考えながら、車の時計を見ると午前4時20分になっていました。暖房のきいた車の中から、降ったばかりの雪についた足跡を見ているうちに、わたしは自分が目にした二人の姉妹の忠実さ、自分たちに与えられた義務を果たすために神殿を目指して歩いて行くその姿に、謙遜な思いを抱きました。

わたしはもう一度その区画を回り、駐車し、カメラを構え、雪についた足跡の写真を撮りました。それはわたしがイメージしていた写真よりもはるかにすばらしい写真でした。■

ランドルフ・シャンクラ（アメリカ合衆国、ユタ州）



足跡のついていない 降ったばかりの

雪の写真を撮るには、
早朝にテンプルスクウェアに
着いていなければ
なりませんでした。

安息日の祝福

エマリン・R・ウィルソン

安息日を聖く保つことがアナベル・ハイアットにとって試練となったのは、彼女が遊園地を運営する会社の実習生として採用されたときのことです。アメリカ合衆国のテキサス州で育ったアナベルは、安息日には礼拝し、休息し、周囲の人々に奉仕するようにと教わりました。しかし、フロリダに移り、実習生として働き始めたときに、日曜日にも働かなければならなくなったのです。

彼女はこう語っています。「最初は、他の全ての社員と同様、きちんと働きに出かけました。数週間たつと、聖餐せいさんを取ったり、これまで以上に必要としていた靈感あふれる言葉を聞いたりしなかった週には気持ちが塞ぐことに気づき始めました。」

ある日のこと、彼女は助けを求めて祈り、勇気を奮い起こして、日曜日には

安息日を
聖く保つということは、
究極のところ、
従順、態度、選択の
問題なのです。

仕事を休み、教会に出席したいと上司に話しました。上司は、それがどうしてもそれほど大切なのか理解できませんでした。しかし、アナベルは諦めませんでした。マネージャーや、スケジュール担当のスーパーバイザーに会うたびに、日曜日には仕事を休む必要があること、もしその願いがかなうなら、他の日にはさらに熱心に働くと話しました。

「最終的には、奇跡が起こり、その願いはかなったのです。」アナベルはそう語っています。「土曜日と日曜日に仕事を休めるようになりました。それは研修プログラムに入って1か月足らずの季節実習生には前例のないことでした。週末に休暇が取れるのは、通常、勤続年数の長い社員にのみ与えられる特権だったのです。」

アナベルはこの祝福について次のように証あかししています。「教会に行くという輝かしい祝福を生活の中に取り戻すことができたとき、劇的な変化を目にし、感じることができました。同僚からどうして教会に行くのか、あるいはどうしてそのことがそれほど大切なのかと尋ねられたときには、一緒に教会に行こうと誘いました。同僚の何人かを連れて教会に行くようになりました。わたしは何の疑いもなく、イエス・キリストの福音は擁護する価値のあるものであるこ



とを知っています。御霊^{みたま}を受けて生活し、より善い人間になるには、安息日を遵守する必要がありますのです。」

多くのヤングアダルトと同様、安息日を聖く保つという戒めを守り続けることで、アナベルは祝福を受けました。日曜日に仕事をしたり、平日に行うべき活動に参加したりするというプレッシャーに耐えるのは難しいこともあります。安息日を聖く保つということは、究極のところ、従順、態度、選択の問題なのです。それはすばらしい祝福を与えてくれる戒めなのです。主は神の子供たちが安息日を聖く保つことができるよう助けてくださるという証を、二人のヤングアダルトが分かち合ってくれます。

主は道を備えられる

ドイツのカトリン・シュルツは、親元を離れて大学に通っていた頃、安息日を聖く保つという決心に関して突然の試しを受けました。「わたしもわたしのきょうだいも、安息日を聖く保つことの大切さについて、両親から教えを受けていました。」彼女はそう語っています。「わたしたちにとって、日曜日とは、仕事も買い物もスポーツもしない日を意味していました。記憶する限り、その定義から外れる日曜日を経験した

ことは一度もありませんでした。

わたしの通っていた大学では、週末を通して、つまり、土曜日と日曜日を丸々使ったセミナーへの参加が義務付けられていました。参加しなければ、卒業できません。一方、主の戒めを全て守りたいという望みもあります。わたしは大変なジレンマに陥りました。状況を吟味しているうちに、自分の力で解決できる問題ではないということに気づきました。わたしは主に嘆願し、戒めを守りながらも研究を修了するための道を示してくださるようお願い求めました。そのように祈った後で、わたしは心に平安を感じました。

セミナーの日が近づき、少し心配になったものの、主は道を備えることがおできになるという確信に変わりはありませんでした。そんなある日、わたしはセミナーの予定が書き出される掲示板を見ていました。ほとんどは週末を通してのものでしたが、日曜日を除いた3日間に予定されているセミナーを一つ見つけました。わたしは、安息日を聖く保つことができるよう主が助けてくださったことを悟りました。そのセミナーが日曜日以外の日に行われることは、それ以前も、その後もありませんでした。その年、絶対に受講する必要

のあるセミナーだったので、それが可能となるよう、主がわたしに計らってくださったのでした。わたしは主が、その戒めを守ることができるよう道を備えてくださったことに、心から感謝しています。」

日曜日に礼拝するための備えをする

ユタ州に住むキャサリン・ウィルキンソンは、土曜日の夜に夜更かしをすることがよくありました。ある週末のことについて、彼女はこう語っています。「友人とわたしは、食事に出かけ、映画を見、真夜中までおしゃべりをしました。ようやく眠りに就いたのは、午前2時を過ぎた頃だったと思います。

日曜日の朝、わたしは暗がりの中で手を伸ばし、7時半にセットしていたアラームを止めました。教会が始まるのは8時半からでした。疲れていたのでまあいいかと思い、アラームを再度、午前8時にセットしました。そのため、やっと起きたときには、開始時間に間に合うよう大急ぎで支度をしなければなりません。2分間でシャワーを浴び、食事を取らず慌てて家を出ました。

教会が長く感じられました。集会中、ほとんど目を覚ましてられません



安息日にキリストを思い起こす

「日曜日は、ペースを落とし、立ち止まり、思い返す日です。わたしたちは教会の集会に出席します。そして、与えられている祝福^{ゆふ}、自分の強みや欠点について考え、赦し^{せうし}を求め、聖餐を取り、わたしたちの代わりに主が担ってくださった苦しみ^{くるしみ}に思いをはせます。……わたしたちは

主の礼拝を妨げるいかなることにとも気を取られないよう努めます。……安息日に行うあらゆる活動は、キリストを覚えるという精神と調和するものでなければなりません。安息日の活動が、救い主を

覚え、救い主がされたと同じように安息日に人に仕えること、それを一時でも妨げるものであるならば、自分の行っていることについて考え直す必要があるかもしれません。……

今日少し時間を取って、皆さんの生活において安息日を実際に神聖で聖い日とするにはどうすればよいか、よく考えて計画を立ててください。そしてその計画に従って行動してください。」

中央若い男性会長会第一顧問 ラリー・M・ギブソン
「いつも御子を覚えている」『リアホナ』2014年1月号、56-57 参照



でした。時計をじっと見詰め、あと何分だったら帰宅して眠れるようになるか、そればかり考えていました。そして、急いでいたために聖典もテキストも忘れていたことに、日曜学校が始まってやっと気づきました。」

最終的にキャサリンは、安息日を充実したものとし、聖く保つために、自分を変えようと決心しました。「わたしは安息日について深く考えました。」彼女はそう語っています。「起きるのが遅すぎましたし、中途半端な準備のまま慌てて教会に出かけ、3時間の集会に耐え(その間の態度もよくありませんでした)、帰宅したらひたすら眠るのです。そのような安息日を過ごすのはそのときに限ったことではありませんでした。わたしは安息日の礼拝から得られる十分な祝福、特に、聖餐^{せいさん}そのものと、聖餐からもたらされる祝福を、自分から奪い取っていることに気づきました。

安息日を守るということには、物理

的に教会の集会に出席すること以上のものが含まれています。それは精神的に、また霊的に教会に出席することを意味するのです。そうすることが今のわたしの望みです。スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985 年)はこう教えています。『安息日は建設的な考え方と行動を要求される日である。したがって、もし何もせずにぶらぶらしているとしたら、それは安息日を破っていることになるのである。安息日を守るためには、ひざまずいて祈り、レッスンの準備をし、福音を学び、瞑想し、病人や苦しんでいる人を訪問し、睡眠を取り、健全な書物を読み、出席することが期待されているその日の全ての集会に出席するはずである。』(『救しの奇跡』97) 自分を変え、この聖なる日を尊ぶようになるにつれて、わたしはより大きな祝福を感じながら生活できるようになりました。」■

著者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

安息日を遵守することを成功に導くためのアドバイス

- 主を礼拝し、聖約を新たに、ワードまたは支部で自分自身と周囲の人々を強めるために、教会に出席する。
- 聖文の研究を優先するために、「キリストの言葉をよく味わ(う。)」(2 ニーファイ 31:20)
- 自分の召しを果たすうえで役立つことをする。たとえば控えの伴奏者であったとしても、そのために練習することはできる。
- ホームティーチングや家庭訪問を通じて、人々に仕え、教え導く。まだ誰も割り当てられていなくても、よく祈り、あなたの励ましや助けが必要な人を見つけ、手を差し伸べる。
- 時間を割いて、家族と語り合い、敬虔^{けいけん}で健全な活動と一緒にいる。
- 自分がしていることについて、その意義を考える。主に仕え、主の業を行ううえで役に立つことだろうか。あなたの家族あるいはワードを一致させるものだろうか。
- 主の日にどうすれば主を尊ぶことができるか、導きを祈り求める。

フランス領ポリネシア

に見る強靱なパドルと強い証^{あかし}

教会機関誌

ミンディ・アン・リービット

太平洋の真ん中に、海底火山の噴火によって形成された島や環礁が118あります。ヤシの木が群生し、黒真珠を豊富に産し、ティアレの花が咲き誇るこの島々には、約27万5,000人のタヒチ島民（フランス領ポリネシアの住民の通称）が住んでいます。

29歳の改宗者ゲリー・フーティーはその一人で、「バツア」と呼ばれる国技のアウトリガーカヌーが大好きです。16歳のときから、バツアはゲリーの生活の大切な一部になっています。レースに出るようになって5年後、アウトリガーカヌーのチャンピオンであり、教会員であるレイドレアンヌに出会いました。彼女の模範のおかげでゲリーはバプテスマを受け、ニューカレドニアで伝道もしました。同じ時期にレイドレアンヌもタヒチで伝道し、ゲリーが伝道から帰って6週間後に、二人は結婚しました。

それから数年がたち、後に息子が一人生まれ現在でもゲリーはバツアのトーナメントに出場していますが、バツアのパドルを作って家族を養っています。「仕事は家のすぐ横で行っています。出かけて行って木材を探し、切って貼り合わせてパドルを作るのです」とゲリーは言います。簡単そう

に聞こえますが、このように立派な木製のパドルを作るには、1本につき丸5日かかります。フーティー家族の住むタヒチ島にはカヌー人口が2万人ほどありますから、パドルの需要は常にあります。

ゲリーもレイドレアンヌも教会の責任で忙しいにもかかわらず、時間を作って神殿に行っています。「神殿に参入しているおかげで夫婦仲はいいんですよ」とゲリーは言います。「それに、仕事の面でも祝福されています。自分の力でパドルを売るのもいいですが、主の助けを受けて売れば、さらに祝福があります。」そのような神の助けは、フーティー家族に欠かすことができません。ゲリー夫妻は、^{じゅうぶん} 什分の一^{あかし} に対しても強い証^{あかし} があります。ゲリーは言います。「天の御父が祝福を下さることについてはみじんの不安ありません。什分の一を納めれば、結局、豊かになるのです。」

フーティー家族にとってバツアはスポーツ以上のものです。良いこぎ手になるためには、ひたすら努力し確固とした意志を持つという原則に従う必要がありますが、この原則は、ゲリーにとってもレイドレアンヌにとっても、福音に

フランス領ポリネシアのある若い夫婦にとって、福音と、自分たちが打ち込んでいるスポーツには、幾つか共通点があります。

献身するための助けになってきました。ゲリーはこう言っています。「バツアは体力が物を言うスポーツですが、一番重要なのは体力ではありません。精神力の方が大切です。つまり、断固としてゴールにたどり着く精神力です。4時間半もパドルをこがなければならないとなると、体が音を上げます。でも、精神力で、できると自分に言い聞かせるのです。福音でも、決意することが非常に大切です。もうだめかと思うことがあっても、わたしたちの人生のために用意された神の計画に従うことにより、信仰の助けを受けて乗り切ることができます。バツアからは、福音に応用できることを常に学べるのです。」■



ゲリーについて

好きなタヒチ料理は何ですか。

カクーです。パンノキの実を砕いて練り、ココナツミルクとボクソクリュ（タヒチ名物の生の魚）と一緒に食べるんです。

どんなことをするのが好きですか。

わたしの家族は、海に行ったり、葉っぱを集めたり、一緒に遊んだりするのが好きです。

フランス領ポリネシア特有の文化にはどんなものがありますか。

ポリネシアの文化としては、タヒチアンダンスが挙げられます。ヘイバダンスフェスティバルは、1881年以来、毎年開催されています。

フランス領ポリネシアの教会

末日聖徒 — 2万2,659人

ステーク 8

ワードおよび支部 83

家族歴史センター 16

伝道部 1

神殿 1（パペーテ神殿）

数字でみると

黒真珠の年間輸出高 — 1億合衆国ドル

フランス領ポリネシアの領土は193万500平方マイル（310万6,839平方キロメートル）の海域にわたるが、土地面積はわずか1,544平方マイル（2,485平方キロメートル）である

平均気温は摂氏26度、平均水温は摂氏27度

タヒチ語のアルファベットは13文字である

タヒチ島について

首都 — パペーテ。タヒチ島にある。

言語 — フランス語、タヒチ語

毎日 神に頼る

1日ずつ、日々の糧を与えることで、
神はわたしたちに信仰を
教えようとしておられます。



十二使徒定員会
D・トッド・
クリストファーソン長老

主の祈りの中には「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください」(マタイ6:11)、あるいは「わたしたちの日ごとの食物を、日々お与えください」(ルカ11:3)という嘆願の言葉があります。どのような日でも、わたしたちには助けが必要ながあるのは誰もが認めることです。必要に対処するために、わたしたちは天の御父の助けを望みます。ある人にとっては文字どおり食物、すなわちその日を生き長らえるための食べ物が必要かもしれません。慢性の病気や、なかなか効果の見えないリハビリのつらさにもう1日耐えるための霊的、肉体的強さが必要な人もいるでしょう。その日の責務や活動に関連することなど、形として見えない必要を抱えている人もいます。例えば、レッスンを教えることや試験を受けることがこれに相当します。

イエスは弟子であるわたしたちに、その日に必要な食物、すなわち助けや支えを求めて神に頼るべきであると教えておられます。

日ごとの食物を天の御父に願い求めなさいという主の勧めから、神が愛にあふれた御方であられることが分かります。神は御自身の子供たちの日常的な小さな必要までも御存じ

で、一人一人を助けたいと願っておられます。わたしたちが「とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える」御方に信仰をもって願い求めることができ、そして「そうすれば、与えられるであろう」と主は言っておられるのです(ヤコブの手紙1:5)。もちろん、それは大変心強い御言葉ですが、ここには単に一日一日を生き抜く助けを得ることよりも、もっと大切な原則があります。神に日ごとの食物を求め、それを頂くことで、神とその御子を信じるわたしたちの信仰と信頼が強まるのです。

日ごと主に頼ることで信仰が養われる

イスラエルの部族が大挙してエジプトを離れてから約束の地に入るまで、荒れ野で40年間過ごしたことを思い出してください。100万をはるかに超える大群衆が食物を必要としていました。一か所にそれだけ大勢の人がいたのですから、狩りで獣をとるだけでは長く食べていきませんし、当時の半遊牧的な生活様式は、作物を作ったり家畜を飼ったりして十分な食物を得るには適していませんでした。エホバは天から日々の食物であるマナを降らせるという奇跡によってこの問題

を解決されました。主はイスラエルの民に、日々その日に必要なだけのマナを集め、安息日の前日に限り2日分を集めるよう、モーセを通して指示されました（出エジプト16：19－29 参照）。

日々の糧を与えることによってエホバは、約400年の間に父祖の信仰をほとんど失ってしまった民に、信仰を持つことを教えようとしておられました。主を信頼し、「あらゆる思いの中で〔主〕を仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない」とお教えになりました（教義と聖約6：36）。主は一日一日、その日に必要な分だけ授けてくださいました。第6日を除けば、翌日以降のためにマナを取っておくことはできませんでした。つまり、イスラエルの子らは、その日一日を主とともに歩き、主が十分な食べ物をその日もその次の日もずっと与えてくださると信じなければならなかったのです。そのようにすれば、イスラエルの民の思いと心は決して主から遠く離れることはないからです。

主を信頼する ―― 解決には時間がかかることがある

中央幹部に召される少し前、わたしは数年の間、経済的な試練に直面しました。時には、わたしと家族の生活が脅かされることもあり、破産の文字が頭に浮かんだこともありました。奇跡的な助けによって問題から解放されるようにと祈りました。誠心誠意何度も繰り返し祈りましたが、最終的な答えは「いいえ」でした。結局わたしは、救い主のように

神に日ごとの食物を求め、
それを頂くことで、
神とその御子を
信じるわたしたちの
信仰と信頼が
強まるのです。



日ごとの食物を
天の御父に
願い求めなさい
という主の勧めから、
神が愛にあふれた
御方であられる
ことが分かります。
神は御自身の
子供たちの
日常的な
小さな必要までも
御存じで、
一人一人を
助けたいと
願っておられます。



「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と祈ることを学びました（ルカ 22：42）。最終的な解決に至るまで、主の助けを求めながら小さな一步一步を進んで行ったのです。

あらゆる手段を尽くし、頼れる場所も人もないときもありました。天の御父の前にひれ伏し、涙ながらに助けを懇願したことが何度もありました。すると御父は確かに助けてくださいました。時には、ただ平安な気持ち、必ず何とかなるという確信だけを感じることもありました。どのように、あるいはどのような道筋になるのか自分ではよく分からなくても、直接または間接的に主が道を開いてくださるということを主は教えてくださいました。状況が変わったり、これまでにない役に立つ考えが浮かんだり、思わぬ収入やその他の手段にタイミングよく恵まれたりしました。こうして何とか解決を見ることができました。

当時は苦しい思いをしましたが、今振り返ると、問題がすぐに解決されなかったことに感謝しています。何年もの間、ほとんど毎日神に助けを求めざるを得なかったため、どのように祈り、どのように祈りの答えを受けるべきかを確かに学びました。また、神を信じる信仰を持つことを非常に実用的な方法で学びました。

救い主と天の御父を非常によく知るようになりました。このような経験をしなければ、同じように、あるいはそれほどよく御二方を知ることではできなかったかもしれませんし、もっと長い時間がかかったかもしれません。わたしは日ごとの食物が貴重なものであることを学びました。聖書の時代の物質的なマナと同じように、現代のマナも実在することを知りました。心の底から主を信頼するようになりました。毎日毎日主とともに歩むことを学んだのです。

日々小さなことに取り組んで大きな問題を克服する

1週間分、1か月分、あるいは1年分の食物ではなく、その日の食物を神に願い求めるということは、問題のうちのもっと小さな、もっと対処しやすい部分に焦点を当てる一つの方法でもあります。大きなことに対処するには、日々小さな事柄に取り組む必要があるかもしれません。時には1日（あるいは1日のほんの一部だけ）ずつしか対処し切れないこともあります。実際の例を挙げましょう。

1950年代に母はがんの大きな手術を受けました。手術も大変でしたが、その後、何十回も、現在から見ればかなり非近代的な医学環境で、苦しい放射線治療を受けました。母はその頃、自分の母親からあることを教わり、その言葉がずっと支えとなったそうです。「具合が悪く、すっかり弱っていたわたしは、ある日母に言ったの。『ねえ、お母さん、あんな治療がまだ16回もあるなんて、とても耐えられない。』母はこう言ったわ。『今日は頑張れる？』『ええ。』『今日は、そのことだけを考えればいいのよ。』この言葉のおかげで、わたしは一度に1日だけ、あるいは一つのことだけを考えることを思い出して、何度も助けられてきたのよ。」

祈りの中で日ごとの食物を願い求めるとき、自分の必要について、すなわち不足している

ものと、自分を守るために必要なものの両方についてよく考えてください。床に就くときに、その日に成功したことで失敗したことについて、また翌日をより良い日にするにはどうしたらよいかについて考えてください。そして、あなたを一日中支えるために天の御父が道に備えてくださったマナについて御父に感謝してください。一日を振り返って、御父の助けを受けて何かに耐えたり、何かを変えたりしたことに気づくとき、御父を信じる信仰が強まるでしょう。永遠の命に向かってもう1日、そしてもう1歩近づけたことを喜ぶことができるでしょう。

イエス・キリストは命のパンであられる

何よりも、マナが予型となり象徴する御方、まさしく命のパンである^{あがな}贖い主がわたしたちとともにおられることを覚えていてください。

「イエスは彼らに言われた、『わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。……

よくよくあなたがたに言うておく。信じる者には永遠の命がある。

わたしは命のパンである。』」(ヨハネ 6:35, 47-48)

命のパンであるイエス・キリストが生きておられること、そしてキリストの^{あがな}贖いには無限の力があり無限の領域に及ぶことを^{あかし}証します。結局のところ、主の贖い、主の恵みこそがわたしたちの日ごとの食物なのです。わたしたちは毎日主を求め、日々主の御心を行って、主が御父と一つであられるようにわたしたちも主と一つにならなければなりません(ヨハネ 17:20-23 参照)。わたしたちが天の御父に願い求めるときに、御父が日ごとの食物を与えてくださるよう皆さんを祝福します。■

2011年1月9日開催の教会教育システムファイヤースайдより





七十人
ホルヘ・F・
ゼバヨス長老

良い友達から 力をもらう

わたしはチリの小さな町で生まれ育ちました。12歳のとき、初めて宣教師を見て、興味を抱きました。そしてある日、同級生が家族で教会の会員になると話してくれました。彼に勧められて、わたしは数か月間、日曜日の集会と火曜日の活動に出席しました。

支部はまだ新しく、わたしはほとんど始めから出席していたので、みんなはわたしを会員だと思っていました。6か月たってから、わたしは宣教師に会員でないことを告げました。宣教師は家族にしか関心がないと思っていたからです。

宣教師はわたしの家族にも働きかけてくれましたが、両親

もきょうだいも関心を持ちませんでした。宣教師はわたしにバプテスマを勧めましたが、まだ12歳だったので両親の許可が必要でした。18歳になるまで待つように父は言うだろうと思いましたが、父はこう言いました。「毎週日曜日になると、きょうだいが眠っているのに、息子が早起きし、一番のよそ行きに着替えて集会所まで歩いて行く姿を見てきました。息子が自分の決断に責任を持つなら、バプテスマを許します。」信じられませんでした。天にも昇る心地がした瞬間でした。それで、わたしは翌日バプテスマを受けたのです。

教会の会員であることで、もちろん霊的な祝福を受けることができました。そればかりでなく、すばらしい友達を得ることもできました。わたしがバプテスマを受けた頃、

皆さんが選ぶ友達は皆さんの人生に
大きな影響を及ぼします。わたしの場合はそうでした。



同じ年頃の若い男性が数人教会に来始め、非常に仲の良いグループになりました。全ての集会と活動と一緒に出席し始めました。

17歳になったとき、わたしは大学に進学するために町を離れました。仲の良かった友達のうち3人も同じ町にある大学に行くことになり、皆で一緒に住みました。これは大きな祝福でした。支え合い、守り合えたからです。励まし合って一緒に教会に通いました。4人で家庭の夕べもして、教会員である他の学生を招くこともありました。学生時代を通じて、わたしたちは強め合ったのです。あれから45年たちましたが、彼らはまだわたしの親友です。世界のあちこちに散らばってはいますが、いつも連絡を取り合っています。6人全員が伝道に出ました。

ですから、皆さんにも若いうちに教会の中で良い友達を作るように勧めます。友達を信頼し、助けてください。良い友はいつでも進んで皆さんを助け、信頼に値する人で、決して皆さんを傷つけたりしません。友達は完全でなくてはならないと言っているのではありませんが、皆さんの標準と価値観を尊重する人でなければなりません。良い友達というのは一緒にいて楽しいだけではありません。心から友達の幸せに関心があり、誤ったことをしているときには勇気をもってそ

う言ってあげることも含まれます。

わたしは教会の青少年に感心しています。わたしが若い男性だったときから時代は変わりました。地上におけるこの時代はすばらしい時代です。しかし、同時に危険な時代でもあります。無事に切り抜けるには、「しっかり鉄の棒につかまりながら」進み（1ニーファイ8：30）、両親や教会指導者の勧告と助言に従わなければなりません。良い友達を作れば、それがしやすくなります。

皆さんの中には、学校やクラスに教会員は自分だけで、独りぼっちだと感じている人がいるかもしれません。しかし、皆さんは独りではありません。主イエス・キリストと天の御父は、皆さんを宝と思い、生涯を通じて皆さんを助けたいと切望しておられるのです。真の友達は皆さんが御子と御父に近づけるよう支えてくれます。

聖典には「ここでわたしたちの間にある交わりが、〔天でも〕わたしたちの間にある。ただし、その交わりには、……永遠の栄光が伴う」と記されています（教義と聖約130：2）。栄光に包まれ、完全な幸福を感じながら、友達や家族と来世で再び会うことがどのようなものかは、想像するしかありません。それは間違いなくすばらしい時です。しかもそれが永遠に続くのです。■





仲の良い友達がつまづくとき

「**彼**女とは仲良しでしたし、いつも同じ標準を持っていました。でも、……。」
似たような話を聞いたことはありませんか。皆経験したり、目にしたりしたことがあるはずです。仲の良い友達が間違ったことをし始め、同じことをするよう他の人も誘うのです。皆さんが直面する最大の問題は、「このような行いについて友達に忠告するべきか」そして「このような行いが続くようなら、この友達と付き合うのをやめるべきか」ということかもしれません。

全ての状況に当てはまる答えが一つあるわけではありません。ですから、解決策を見つけるには、『若人の強さのために』にある次の勧告に従う信仰と勇気が必要となります。「周囲の人と友達になろうとするときに、あなたの標準に関して妥協しないでください。友達が間違ったことをするようあなたに強く働きかけてきたら、たとえ孤立することになっても、正しいことを擁護する人となってください。あなたが戒めを守れるよう支援してくれる他の友達を探すとよいでしょう。こうした選択をするときには聖霊の導きを求めてください。」(16 - 17)

誤った道へ進むよう誘い始めた友達に対処した青少年の例を二つ紹介します。



かつて高い標準を持っていた友達が標準を下げたら、どうしたらよいでしょうか。

友人でいることを諦める

「標準なんて忘れろと勧め始めた友達がいました。しばらくの間、わたしは耳を傾けました。でもようやく、もうたくさんだ、彼女の影響を受けるのはもうやめにしようと決心しました。強さと導きを求めて祈りました。自分がすべきだと知っている生活を再び始めたので、求めている導きを受けることができました。そのうち、彼女と一緒にいるのをやめると、数か月で証あかしがとても強まりました。どのような人と友達でいるかで、福音が教えるように生きる能力に明らかな違いが出ます。」

マーガレット・デニース・K, 17歳
(アメリカ合衆国, ユタ州)

希望を持ち続ける

「中学の始めに、霊的にとても強い教会員と知り合いました。アロン神権者で、福音に従って生活している模範のように思えました。わたしたちは仲良くなり、教会についてたくさん話し合いました。年がたつにつれて、彼の自尊心は揺らぎ、標準を守る力が弱くなっていきました。わたしとの友達関係はかろうじて続いていましたが、彼は道徳的にあまり良くない影響を与える生徒たちと付き合っていました。彼が悪い言葉遣いをしたり、不道德なことや不適切なことについて冗談を言ったりするのをしばしば耳にするようになりました。彼の友達の中には無神論者が数人いて、「モルモン教」

について失礼な話をよくしました。しばらくすると、彼は紅茶を飲むのがやめられなくなり、13歳でガールフレンドを作りました。

わたしはどうすればよいかわかりませんでした。何度か、心配していることを優しく伝えようとしたのですが、彼は耳を貸そうとしませんでした。それでも諦めませんでした。自分の標準を守り、彼の模範になろうとしました。友達でいることをやめたくなかったのですが、状況が悪くなるにつれ、そうした方がよいのではないかとだんだん思うようになりました。結局、何度かひざまずき、彼の安全が守られるように祈りました。

その頃、彼の父親が別の州で仕事



友達の影響

「友人は皆さんの将来に影響を与えます。皆さんは彼らに似た者となって、彼らの選ぶ場所に行く傾向があるからです。この世で歩む道が、来世で歩む道に通じていることを忘れないでください。……

皆さんの選ぶ友達は、成功を助けるか、あるいは妨げるかのどちらかです。」

トーマス・S・モンソン大管長
『危険な道』『聖徒の道』1998年7月号, 54

を見つけました。近々引っ越すことになって、友達の目が開かれ、自分のしてきたことが分かるようになりました。3年間わたしが彼に伝えようとしてきたことが、突然理解できたのです。それからの数週間、彼はそれまでの悪い行いを取り消すために必死に努力しました。わたしが話しかけると、わたしが模範を示し、彼のことを見放さなかったことに感謝してくれました。彼はその数年で一番幸せで、末日聖徒であることの意味を本当に理解しました。

友達がつまずくときはいつでも、その人の行動について注意してあげるのが一番だと思います。でも、ぼくの友達のように耳を貸してくれなくても、諦めないことです。その人が本当の友達を最も必要としている時かもしれないからです。たとえその友達に標準に合わないことをするよう誘われても、自分の標準を守りましょう。その人のために祈ってください。このような経験を通して皆さんが力を得られること、

そして友達を助けようと努力しているのは皆さんだけでないことを知っています。善を擁護するとき、自分が弱く、場違いなことをしていると感じがちです。でも、主は弱い者を通して大いなる業を果たしてくださるのです。」

コリン・Z, 16歳
(アメリカ合衆国, ワイオミング州)

繰り返しますが、「友達と一緒にいるのをやめるべきか」という質問への答えは一つではありません。しかし、一つ確かなことがあります。御霊の導きを求めていつも祈り、その導きに進んで従うことです。基本的に、気にかける必要があります。自分と友達の霊的な幸福を気にかけてください。友達に対して自分がどのような模範となり影響を及ぼすか気にかけてください。友達が皆さんに及ぼす影響を気にかけてください。天の御父が愛を込めて見守ってくださると信じる信仰を持つとき、探していた答えを受けることができるでしょう。■



わたしたちのスペース

眺めとモルモン書を分かち合う

ウェールズの小さな町で伝道していたとき、同僚とわたしは町に多くある丘の一つに続く道でちらしを配っていました。暑い夏の日のことでした。丘の頂上に着くと、そこからの眺めはすばらしく、わた

したちは少し休憩して景色を楽しみ、元気を取り戻すことにしました。

リュックサックからオレンジを取り出したとき、中国人の女性が丘を登って来るのが見えました。なぜか分かりませんが、わたしは彼女に手を振りました。女性はうれしそうに手を振り返し、歩いてきて近くに腰を下ろしました。わたしたちは言葉を交わし始めました。彼女は、そこからの景色が神と、神が自分を愛しておられることを思い出させてくれるから、景色を見に丘を登って来たのだと説明しました。そして、中国に戻ろうと思っていた矢先に、ウェールズで仕事が見つかったことも話してくれました。何か自分の知らない理由のために神がその

仕事を用意してくださったのだと信じ、そこに就職することにしたのです。

その出会いから間もなく、わたしたちは改宗したばかりの会員の家で彼女を教え始め、多くの霊的な時を共有しました。その一つをわたしは一番大切にしています。わたしたちは中国語のモルモン書の扉にそれぞれ証^{あかし}を書き、彼女にあげました。御霊^{みたま}が非常に強く感じられ、彼女は泣きだしました。

それから少しして、わたしは別の区域に転勤になりました。あいにく、彼女のバプテスマのために前の区域に行くことはできませんでしたが、高い丘の上で出会ったときのことを思い出すたびに、いつも強められます。

コレック・バーダー（ドイツ）



家族は永遠に

「家族を皆結ぶ道を、主は教えたもう」。（「家族は永遠に」『賛美歌』187番）わたしは、家族が永遠に結び固められることを教えるこの初等協会の歌が大好きです。特に父が亡くなった後、わたしは自分の家族にとってもそれが実現するよう祈りました。

最近、主はわたしの祈りにこたえてくださいました。母と二人の弟と一緒に、互いと父とに結び固められるために、フィリピン・マニラ神殿まで行くことができたのです。一緒に神殿に参入するのは初めてでした。今でも、母と弟たちの目が幸せで輝いていたことを覚えています。そこには大きな喜びがありました。

神殿は主の宮であり、神殿で仕える人々には神聖な儀式を執り行う正しい権能があることを知っています。それらの儀式を通じて、わたしの家族が再び父と一緒にになれることにとても感謝しています。神殿に行ってから、わたしたちは永遠に一緒にいられるように、より堅固な家族になり、聖約を守るためにできるだけのことをしようと努力しています。

クリサント・コロマ（フィリピン）





前世

について分かっていること

地上に来る前の人の状態に関する
基本的な真理が分かると、
物事を正しく見るができるという
すばらしい祝福があります。

セミナー・インスティテュート
ノーマン・W・ガードナー

伝道に出ずに結婚することにしたある若い男性は、まず祝福師の祝福を受けたらどうかと勧められました。「祝福を受けている間、〔彼は〕前世にいる自分を垣間見ました。彼は、キリストに従うようにと説いて勧め、非常に雄々しく、他の霊たちに大きな影響力を及ぼしている自分の姿を見たのでした。自分が本来どのような人間であるかを知って、伝道に出ずにいられるでしょうか。」¹ これは、前世に関する知識がどれほど人を変えるかを示す一つの例です。

「あなたは何歳ですか」という質問に答えるのは簡単です。誕生日が来れば、人は肉体的に年を取ります。しかし、本当の年齢はそれよりもずっと上なのです。わたしたちは皆、「神の属性と神聖な行く末を受け継いだ天の両親から愛されている霊の息子、娘です。」² 霊の体が創造される前、わたしたちは皆「英知」として存在して

いました。「英知」には、始まりも終わりもありません。³

自分が天の両親とともに
永遠に存在する者であることが分かると、
自分と人生を永遠の見地から見るができるようになり、人生が変わります。

わたしたちは前世で教えを受け、神の子供たちを救うという天の御父の業を助ける備えをしました（教義と聖約 138：56 参照）。神に従うかどうかを選択する自由もありました。御父の子供たちの中には、その「非常に深い信仰と善い行い」を通して自らを立証し、地球において特定の方法で奉仕するように予任され、割り当てを受けた者もありました（アルマ 13：3）。天の御父に従った霊の中で最も偉大な御方は、御父の霊の長子であられるイエス・キリストであり、前世ではエホバとして知られていました。

前世で、御自身の子供たちの救い

の計画について父なる神が説明されたとき、わたしたちは皆そこにいたとジョセフ・スミスは説明しています。わたしたちは、死すべき世を送るときに生じる問題に打ち勝つために、救い主が必要であることを知りました。⁴

天の御父はお尋ねになりました。「わたしは〔救い主として〕だれを遣わそうか。」イエス・キリストが答えられました。「わたしがここにあります。わたしをお遣わしてください。」（アブラハム 3：27）イエス・キリストは、御父が「初めから……愛し選んだ者」であり（モーセ 4：2）、この役割を果たす意志を常に示しておられました。しかし、ルシフェルがこれを遮り、自分を遣わすよう申し出ました。人の選択の自由を損ない、自分を神の御座の上に置く提案をしたのです（モーセ 4：1－4 参照）。天の御父は答えられました。「わたしは最初の者を遣わそう。」（アブラハム 3：27）ルシフェルは背き、サタンとして知られるように

なりました。

霊たちの意見の相違は、天における戦いを引き起こしました。神の子供たちの3分の1は神に背いて去り、サタンに従いました（教義と聖約 29：36－37 参照）。背いた霊たちは肉体を受けることを許されず、この地球に投げ落とされ、神の聖徒に戦いを挑み続けています（教義と聖約 76：25－29 参照）。背かなかった神の子供たちは喜んで叫びました。地球に来ることができるようになり、罪と死に打ち勝つためにイエス・キリストが選ばれたからです（ヨブ 38：7 参照）。

前世でわたしたちは福音の知識と証、救い主とその贖いに対する信仰を育みました。これらは、天上の戦いのときに大切な守りと強さになりました。神に従った霊たちは、「小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって」サタンとその使いたちに打ち勝ちました（黙示 12：11）。わたしたちはこの地上で福音を学び、証を得ていますが、基本的には、かつて前世で学び、感じたことを再び学んでいるのです。

地上の全ての人が前世で救い主に従うという選択をしたことが分かったと、伝道活動の助けとなり、わたしたちの生活は変わります。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老はこう言いました。「現世にいる神の子は皆、救い主の計画を選んだのです。同じ機会が与えられるなら、再び同じ選択をすると信じてください。」⁵

この世に生まれてからの数年間を思い出すことができないのと同じように、わたしたちの前世の記憶は閉ざされています。このことは、わたしたち

が信仰によって歩み、そして主に似た者となるように自らを備えるために必要なのです。しかし、わたしたちは確かに、前世で天の御父を知っていて、愛していました。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899－1994 年）は、次のように約束しています。「とばりを越えてかなたの世界へ行くとき、わたしたちは自分が天の御父をよく知り、その御顔をよく知っていることに気づき、本当に驚くことでしょう。」⁶

天の御父がわたしたちを知っておられ、愛しておられることを知ると、祈りがさらに個人的で親密なものとなり、人生が変わります。

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、このように教えています。「前世に関する教義を学ぶことなく、人生の意義を知ることはできません。……前世に関する教義を理解すれば、全ては調和して意味を成すようになります。」⁷

前世について理解することによって、あなたはどのような祝福を受けてきましたか。■

注

1. ランドール・L・リッド「選びの世代」『リアホナ』2014 年 5 月号, 57 参照
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010 年 11 月号, 129
3. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』210。教義と聖約 93：29 も参照
4. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』209 参照
5. リチャード・G・スコット「わたしは手本を示したのだ」『リアホナ』2014 年 5 月号, 34 参照
6. エズラ・タフト・ベンソン「イエス・キリスト——賜とわたしたちへの期待」『聖徒の道』1987 年 12 月号, 5 参照
7. ボイド・K・パッカー「人生の謎」『聖徒の道』1984 年 1 月号, 31 参照

前世

前世における各テーマに関する聖句——

霊の子供たち

ローマ 8：16－17

教義と聖約 93：23, 29, 33－34

アブラハム 3：22－23

予任

エレミヤ 1：5

アルマ 13：3

教義と聖約 138：55－56

イエス・キリスト——長子

ヨハネ 1：1－2；8：56－58；17：5

1ペテロ 1：19－20

教義と聖約 93：7, 21

天上の会議

教義と聖約 121：32

モーセ 4：1－4

アブラハム 3：24－28

天上の戦い

黙示 12：4, 7－11

教義と聖約 29：36－37

教義と聖約 76：25－29

「最近大切な友人を亡くしました。この悲しみにどう対処すればよいのでしょうか。」

友 人の死は、わたしたちが直面する最もつらい試練の一つです。深い悲しみは、そのような出来事後に湧き上がる自然な感情です。あなたは、その友人を大切に思っていたので、悲しみを感ずるのです。「あなたは死ぬ者を失うことで涙を流すほどに、……ともに愛をもって生活するようにしなければならぬ。」(教義と聖約 42:45)

深い悲しみが癒えるまで、あなたは悲しみや怒り、絶望、疲労感、何もしたくないという気持ち、打ちのめされたような気持ちなど、つらい感情を経験するかもしれません。しかし同時に、悲しみに暮れる人は、主を求め、主に近づくことで、平安を感じることが多いのです。そのような人には、次の神の約束が与えられています。「悲しむ人々は皆、幸いである。彼らは慰められるからである。」(3 ネーファイ 12:4) 深い悲しみはつらいものですが、人を癒やすものでもあるのです。

自分の感情と向き合うとき、前向きなことに焦点を当てるようにしましょう。友人との良い思い出を大切にしてください。救い主の平安と慰めが感じられるように祈り、天の御父の愛と優しさ、救いの計画に希望を見いだしてください。

深い悲しみを感ずるということは、信仰がないことを意味しているわけではありません。トーマス・S・モンソン大管長は自分の妻を亡くしたことについて、総大会で次のように話しています。「妻がなくて寂しいという言葉では、わたしの深い思いをお伝えすることはとうていできません。」それからモンソン大管長は試練について触れ、こうまとめています。「わたしたちは、つらい悲しみを体験したり、胸を痛めたり、極限まで試されることがあるのを知っています。しかし、そのような困難を通じて、より良い方向に変化し、天の御父が教えておられる方法で人生を立て直〔す〕……ことができます。」(「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない」『リアホナ』2013年11月号, 85, 87)

友人の死から立ち直って、さらに良い人になろうという気持ちを持つにはどうしたらよいのでしょうか。



深い悲しみと信仰を結び合わせる

深い悲しみを感ずるのは悪いことではありません。(でも、あなたが

ずっと失意の底にあり続けるなら、悪になり得ます。) 深い悲しみと信仰を結び合わせることで、愛する人を亡くしたときの耐え難い思いを和らげる最善の方法です。今あなたの友人は、霊界で何をしているのだろうかと考えてみてください。あなたの友人はあなたを愛しているので、幸せであってほしいと思っていますでしょう。霊界について学ぶことで、救いの計画に対する理解が深まり、平安、希望、信仰がもたらされます。天の御父に祈って助けを求めることを忘れないでください。天の御父とその御子イエス・キリストはあなたがどう感じているかをよく御存じなので、心から願うなら助けが与えられるでしょう。

メアリー・G, 14歳
(アメリカ合衆国, バージニア州)



神はあなたの友人を愛しておられる

深い悲しみに向き合うことが困難であっても、いつの日か、あなたの

友人に再び会うことができるという天の救いの計画のことを思えば、聖霊を通して慰めを得ることができます。試しを受けるこの地上の人生は非常に短いということを忘れないでください。天の御父は、あなたの友人に一つの間所を用意しておられます。神は御自身の子供たちを愛しておられます。

マービン・S, 16歳
(フィリピン, マニラ首都圏)

あなたの友人のために幸せになる

わたしは愛する人を亡くしましたが、天の御父は彼らのための計画を持っておられるので、また会えるということを忘れないようにしています。わたしたちは彼らのために喜ぶことができます。この世を去った人たちは、この死すべき人生の苦悩にさいなまれることはもうないからです。愛する人々が体としてはもう近くにいないと思うと心が痛みますが、彼らと再び会えることを楽しみにして待つことができます。

アリアドナ・T, 19 歳 (メキシコ, メキシコシティ)



聖文に助けを見いだす

最近、わたしの親しい友人が悲惨な交通事故で亡くなりました。わたしは、キリストのもとに行くことによって慰めを見いだしました。キリストがわたしたち一人一人を愛しておられるという証を得なければならず、神の子供としてわたしたちが何者であるかを理解しなければなりません。そして、最も大切なのは、神の計画と神の子供たちに対する御心を理解しなければならなかったということです。聖文を読み、教会の集会に出席し、教会の教材を読んで、神に心を向けました。すると、わたしは証を得て、平安と慰めを感じることができました。特に助けとなったのは、「大切な人を亡くしたとき、どのように慰めを見いだせるでしょうか」という青少年のレッスンテーマでした。このレッスンで参照した聖文、記事、ビデオは全て大変すばらしいもので、そのおかげでわたしの人生は変わりました。

マディリン・N, 18 歳
(アメリカ合衆国, アイオワ州)

自殺について

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、次のように述べている。

……「自分の命を絶つのは、本当に大きな悲劇です。この行為が非常に多くの犠牲者を生み出すからです。まず、亡くなった本人、そして何十人という人々。その中には後に残された家族や友人も、またこれからの長い人生を、深い悲しみと心の傷を抱えて生きていかなければならない人々もいるでしょう。……

明らかにわたしたちは、自殺を取り巻くあらゆる事情を完全に知ることはできません。ただ主だけが全てを詳しく知っておられます。ですから、この地上におけるわたしたちの行動を裁くことがおできになるのは主だけなのです。

……主がわたしたちを裁かれるときには、あらゆる点を考慮されることでしょう。遺伝的な要素や体質、精神状態、知的能力、これまでに受けた教育、先祖からの伝統や慣習、健康状態などです。……

自殺は罪です。しかもきわめて重大な罪ですが、それでも主はその罪を犯した人を厳密にその行為だけで裁くことはなさらないでしょう。主はその事件を起こした時点でその人の状況や責任を取れる度合いなどを考慮されることでしょう。」

「自殺についてわかっていること、わかっていること」『聖徒の道』1988 年 3 月号, 17—19 参照



死は神の計画の一部である

「地上に生き長らえて、このような若い人々が、若い盛りに取り去られるのを目にするのは、わたしにとってつらいことです。彼らは、わたしたちの支えとなり慰めとなってきた若者たちです。事実、このような事柄を甘んじて受けるのは難しいことです。わたしはときどき、もしそれが神の御心であるなら、自分自身が召されていた方がもっと諦められたらと思うことがあります。それでもわたしは、わたしたちが穏やかにしているべきことを知っています。それが神の御心であることを知り、神の御心に従わなければならないことを知っています。全てが正しいことなのです。」

預言者ジョセフ・スミス『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』178—179 参照

次回の質問

「わたしの友人の幾人かは、教会に行くのは時間の無駄だと思っています。教会に行くと大きな祝福が得られるということを分かってもらうために、わたしにはどんな助けができるでしょうか。」

あなたの意見をお聞かせください。2015 年 3 月 15 日必着で liahona@ldschurch.org に投稿するか、liahona@ldschurch.org まで電子メールをお送りください。郵送することもできます (郵送先については、3 ページをご覧ください)。希望する場合は、高解像度の写真も添付してください。

電子メールまたは手紙には、次の情報と承認の言葉を必ず明記してください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載を許可するというあなたの同意文 (18 歳未満の場合は保護者の同意文も必要です [電子メール可])。

ソフィアの いない寂しさ

暗闇と苦痛の中で、
わたしは姉の無事を
祈りました。



フェルナンド・ペラルタ

20 12年、セミナリーと高校を卒業したわたしに、新しい世界が開けました。その年の初めに開催された合同ステーキの青少年のキャンプは、ことのほかすばらしいものでした。天の御父から祝福され、守られていると感じました。

数年前に、わたしは専任宣教師として伝道に出る決心をしました。そこで、2012年は、できる限りお金をためることに専念しようと計画しました。姉ソフィアのおかげで、彼女の勤務先ですぐに仕事を見つけることができました。2月22日、ソフィアとわたしは仕事に行くために電車に乗りました。天気の良い日でしたが、目的の駅に着いた直後に大きな異音聞こえ、その後、全てが真っ暗になりました。

目を覚ますと、体が痛くて、何が何だか分かりませんでした。この世の旅路はもう終わるのだろうか。元気になって、伝道に出たい、家族も持ちたいと心から思いました。わたしは祈りました。生きて伝道に出る機会を与えてくださいと、天の御父にお願いしたのです。

転倒してゆがんだ列車の中で体を横たえ、あたりを見回して姉を探したのですが、見つけれませんでした。その後やっと、冷静になるよう消防士が皆に呼びかけている

のが聞こえ、わたしは心に希望を感じることができました。姉がどこにいますか分かりませんでしたが、とにかく無事を祈りました。祈ると大きな平安を感じました。わたしは痛みと闘わなければなりませんでしたが、天の御父は必要な力を与えてくださいました。

1時間後、わたしは助け出されました。救助される間、主がともにいてくださるのを感じました。足は手術を受ける必要がありましたが、そのために病院へと運ばれている間、姉のことを考えずにはいられませんでした。姉はどうなったのでしょうか。でも、姉について考えるたびに、わたしは平安を感じました。

翌日、ソフィアがその事故で亡くなったことを両親から知らされました。それを聞いて、それまで感じたことのない大きな苦痛を感じました。しかし、同時に安らぎも感じ、両親が神殿で聖約を交わしていることに感謝しました。わたしたち家族は永遠に結び固められているのです。

わたしが病院から家に戻ると、主は友人や親戚を通してわたしたち家族を祝福してくださいました。彼らは天使でした。わたしたちに慰めを与えてくれたのです。わたしたちは、これからもずっと、彼らの愛に感謝するでしょう。神権の力のおかげで、思っていたよりもずっと早く歩けるようになり

ました。ほんの数か月で、普通に歩けるようになったのです。

福音はどこから見ても美しいものです。わたしは神殿と神殿の儀式にとっても感謝しています。わたしは、主が姉のために何か神聖なことを用意しておられると思います。姉がいな人生は容易ではありません。これからは決して容易ではないでしょう。しかし、わたしたちの確信と平安は、姉がいなことで感じる苦痛を上回っています。わたしたちはソフィアがいなことを心の底から寂しく思い、毎日彼女のことを思い出しています。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、「自分の家族がいな天国は、天国ではありません」と言っています (*Between Heaven and Earth* [DVD, 2005年] 参照)。確かにそのとおりであることを証します。

神はわたしたちを愛しておられ、決してわたしたちを独りにはされません。イザヤ書 54章 10節にこう書かれています。「『わがいつくしみはあなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない』とあなたをあわれまれる主は言われる。」■

著者はアルゼンチン、ブエノスアイレス在住です。

『リアホナ』に関するご意見は、liahona@ldschurch.org に電子メールでお送りください。

聖文を研究する
時間がないなどという
**サタンの欺きに
屈してはなりません。**

聖文を研究するための時間を取ってください。

神の言葉を毎日よく味わうことは、
睡眠や学校、仕事、テレビ番組、コンピューターゲーム、
ソーシャルメディアよりも大切です。

神の言葉を研究する時間を取るために
優先順位を見直す必要があるかもしれません。
もしその必要があれば、見直してください！

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット長老

「信仰を行使することを最優先とする」

『リアホナ』2014年11月号, 93

とく べつ な しょう にん
特 別 な 証 人じょうに し と ていんかい
十二使徒定員会リチャード・G・
スコット長老

ホイットルおばあちゃん からの手紙

リチャード・G・スコット長老が小さいとき、お父さんは教会員ではありませんでした。お母さんは教会員でしたが、あまり教会には行っていませんでした。リチャードが8才になったとき、バプテスマを受けませんでした。そのとき、ホイットルおばあちゃんがたずねて来ました。

ホイットルおばあちゃんは、良いもはんでした。おばあちゃんはリチャードとそのきょうだいたちが、バプテスマを受けることや教会に行くことがどんなに大切かを分かるように助けてくれました。やがて、リチャードと兄がシバテスマを受けました。

リチャードが教会でお話をしなければいけないときはいつも、ホイットルおば

あちゃんからヒントをもらおうと電話していました。すると、すぐにおばあちゃんから手紙が来て、そこにはリチャードのために書かれたお話が入っていました。もう少し大きくなってからは、いろいろなアイデアの入った大まかな話の流れをおばあちゃんを書いて、リチャードが自分で話を考えて書けるように助けてくれま

した。リチャードは、ホイットルおばあちゃんが自分を愛してくれていること、そして、福音を愛していることがいつも分かりました。

大学で、リチャードはもう一人、すばらしいもはんをしめしてくれる人に出会いしました。彼女の名前はジェニーと言いました。あるばん、ジェニーはリチャードに言いました。「わたしは、帰還宣教師と神殿で結婚するつもりよ。」リチャードは、伝道に出ることについていることにしました。それから間もなく、リチャードとジェニーは二人とも伝道に出ました。伝道から帰った後、リチャードとジェニーはユタのマンタイ神殿で結婚しました。■





管理ビショップ
ゲリー・E・
スティーブンソン
ビショップ

あなたの番です



ノエル選手にとって、オリンピックに出場するのは、今回が初めてではありませんでした。2006年には、足を骨折したため、出場できませんでした。2010年の大会では、0.1秒の差でメダルをのがしました。でも、彼女はあきらめませんでした。2014年のオリンピックでは、彼女のすべりにはほとんどミスがありませんでした。そして、銀メダルを勝ち取ったのです。

挑戦し続ける

クリストファー・フォグト選手は、ボブスレー男子4人乗りの競技でどうメダルを取りました。2010年の大会で、大きなしょうとつをした後、やめることもできましたが、ノエル選手と同じように、挑戦し続けました。そして彼も、メダルを取ったのです。

人々を助ける

オーストラリア出身の末日聖徒のスノーボード選手、トーラ・プライト選手は、世界中の人々をおどろかせました。アメリカ出身のスノーボード選手、ケリー・クラーク選手が、最初の滑走で失敗したためにきんちょうしているのに気づいたトーラ選手は、自分の競技だけに

去年、世界中の人々が、ロシアのソチで開かれた2014年冬季オリンピックで89の国から来た選手たちがきそい合うのを見ました。その選手のうち10人が末日聖徒で、そのうち3人がメダルを獲得しました。

熱心に努力する

末日聖徒の選手の一人である、ノエル・パイカースペース選手について

お話しします。彼女の競技はスケルトンでした。小さなそりにうつぶせで乗り、顔を地面から数センチだけうかせたじょうたいで、曲がりくねった氷のコースを時速145キロのスピードで頭からすべるのは、どんな感じか、想像してみてください。オリンピックでメダルを勝ち取るために、ノエル選手に与えられていたのは、60秒の4回分、つまりたった4分間だけでした。



集中することなく、ケリー選手が落ち着くまでだきしめてあげたのです。トーラ選手がこのようなささやかな親切な行いをしたことで、トーラ選手自身も、ケリー選手も、表彰台に立つことができました。トーラ選手は銀メダルを、ケリー選手は銅メダルを勝ち取りました。もし、あなたの友達や家族が、はげましを必要としていたら、あなたも助けてあげてください。

あなたの番です

みなさんの永遠の命は、この選手たちの経験とよくにっています。神のむすこやむすめとして、みなさんは神とともにくらして이었습니다。ほんのわずかな間この地球ですごくために、

じゅんびしてきました。みなさんのこの地上での生活は、ノエル選手にとっての4分間のようです。みなさんがこの地上でどのような行いをするかによって、永遠の命というメダルを勝ち取るかどうかが決まるのです。

あなたのチェックポイント

ノエル選手やクリストファー選手やトーラ選手は、オリンピック選手になるために、必要なだんかいをふむ必要がありました。みなさんが天のお父様のところにもどれるように助けてくれる、いくつかのチェックポイントがあります。それは、バプテスマや、せいいいの賜物、神権のせいにな、神殿の儀式を受けることや、毎週せいさんを取るなどです。

自分のチェックポイントにたどり着けるように、日々のつたり、聖文を研究したり、教会に出席したりする必要があります。いましめを守り、かわした聖約を守り、主の標準にしたがってください。くい改める必要があるなら、あがないのきせきを思い出してください。天のお父様は、あなたを一人放っておかれることはありません。

みなさんはこの地球ですごく時間のためにじゅんびしてきたということをおぼえてください。今がみなさんの本番です。今こそ、その時なのです。■

「あなたの4分間」『リアホナ』2014年5月号、84～86から

げん せ かみ あ
「現世は神にお会いする
よう い じ き
用意をする時期である。」
(アルマ 34:32)

わたしたちの ページ

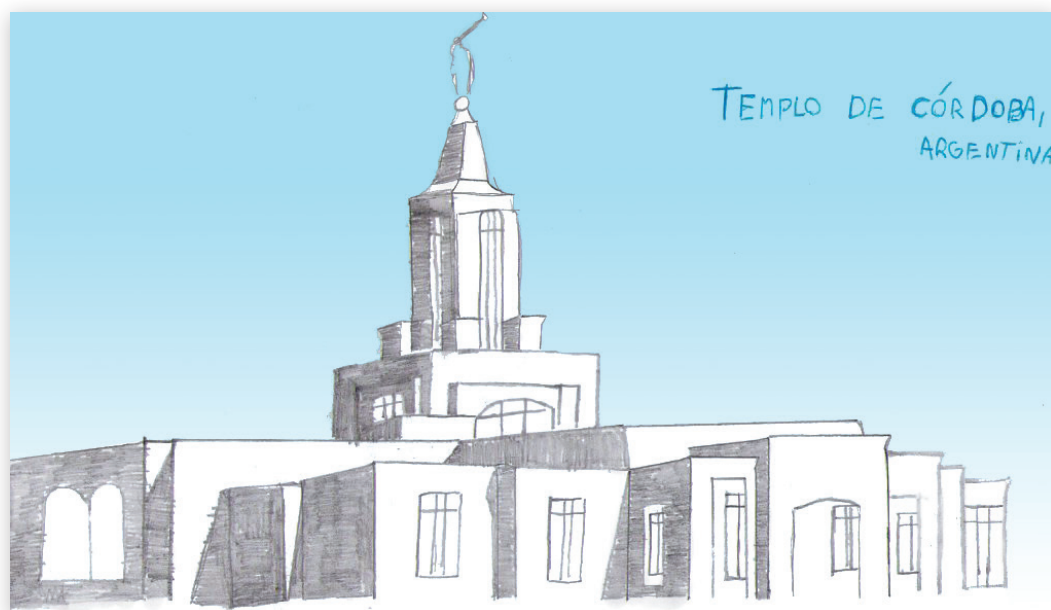


「ぼくは、せんきょうしに なりたいです」
サミュエル・Q, 8才 (ブラジル)

「そうぞう」 ビビアン・A, 6才 (スペイン)。
ビビアンは 言います。
「わたしは、天の お父さまが どうぶつを
そうぞうしてくださったことに かんしゃしています。
どうぶつには、いろいろな 色や しゅるいが あって、
ちきゅうを うつくしく してくれているからです。」



「アルゼンチン、コルドバ^{しんでん}神殿」
ティジャーノ・S, 10才
(アルゼンチン)。
ティジャーノは言います。
「ぼくは本当に早く
神殿^{しんでん}が完成^{かんせい}してほしいです。
12才になったら、
神殿^{しんでん}に入れるからです。」



「天のおん父は たえず しゅくふくを^{そそ}注いで おられるのです。」

— ディーター・F・ワークトルフ^{カール}管長

「よろこんでふくいんに生きる」
『リアホナ』2014年11月号、121から



「信じていのる。天の神様に」

（「信じていのる」

『聖徒の道』1991年3月号、
子どものページ5）

「ほら、フィン。もう行く時間だよ！」ヨハンが言いました。

フィンのお兄さんのヨハンは、いら
いらしながら玄関で待っていました。
学校にちこくしたくなかったからです。

フィンはしかめっつらをしま
した。学校に行きたくなかつ
たのです。家族で新しい家
に引っこして来たばかり
で、学校に行く最初の
年だったので、学校の
友達はまだ一人もいま
ませんでした。前の学校の

友達に会いたくて仕方ありません。

「ほく、こわいよ。」フィンはお
母さんのところに走りよって言い
ました。「どうして学校に行かな
きゃいけないの？」

お母さんはフィンをだきしめました。
そして、「きっと大丈夫よ。おいのりし
ましようね。いつだって、おいのりする
時間はあるわ」と言ってくれました。

フィンとお母さんはひざまずく
と、天のお父様にフィンを助けて
くださるようにいのりました。そ
れから、フィンはお兄さんと学校
に行きました。その日は、前より
も少しよくなった気がしました。

それから毎朝、フィンはひざ
まずいて、天のお父様に助けを

求めていのりました。

ゆっくりと、いろいろなことがよ
くなっていました。フィンは友
達ができて、もうこわくなくなりま
した。しばらくしてから、フィンは
学校が好きになり始めました。

ある日、フィンとお兄さんが学校
に歩いて行く途中、フィンはうれし
くなりました。太陽がかがやいてい
ました。今勉強している、いろい
ろな楽しいことについて考えました。
突然、フィンは立ち止まりました。

「わすれた！」とヨハンに言う
と、フィンは走って家にもどりました。

フィンが家にかけこんで来たので、
お母さんは心配そうな顔をしました。

「どうしたの？」と、お母さんが

いつだって おいのり

する時間はある

学校はすごく大変でした。

いろんなことが、少しでもよくなっていくのかな。



き聞きました。

「おいのりをわすれちゃったんだ」
とフィン^いは言う^いと、ひざまず^いきました。
たす^たた。助^たけて^たくだ^たさ^たった^たことを、天^{てん}の
お父^{とう}様^{さま}に感^{かん}謝^{しゃ}した^しか^かった^たの^のです。

おい^おの^のり^りが^が終^おわ^わると、フィン^いは
お母^{かあ}さん^{さん}を^をぎ^ぎゅ^ゅっ^っと^とだ^だき^きし^しめ^めて
「いつ^いだ^だて、おい^いの^のり^りす^する^る時^じ間^{かん}は
あ^ある^るよ^よね^ね!」^いと^い言^いい^いま^いし^いた^い。

フィン^いは^いに^いっ^いこ^いり^いし^いま^いし^いた^い。お母^{かあ}さん^{さん}
も^もに^いっ^いこ^いり^いし^いま^いし^いた^い。そ^そし^して、^おフィン^い
は^いお^お兄^{あに}さん^{さん}に^に追^おい^いつ^つこ^こう^うと^と走^{はし}り^りな^なが^が
ら、^{てん}き^きと^と天^{てん}の^とお^お父^{とう}様^{さま}も^もに^いっ^いこ^こり^りし^して
い^いら^いっ^いし^しゃ^しる^るだ^だら^らう^うな^なと^と思^{おも}い^いま^いし^した^い。■

こ^この^{はなし}お^お話^{はなし}を^を書^かいた^{ひと}人^{ひと}は、^{ドイツ}ドイ^いツ^つの^のバ^ババ^バリ^リア^アに
住^すん^でい^いま^いす。



あた とも だ ち た す 新しい友達を助ける



クインリー・W, 9才
(アメリカ合衆国,
ミズーリ州)

1 年が半分すぎ
たころ、新し
い女の子が学校の
クラスに入りました。
見かけも話し
方も、他のみんなと
はちがっていま
した。今まで引こ
しが多くて、なか
なか

友達を作れま
せんでした。家族
に悲しい出来事が起
こって、泣きなが
ら学校に来たことも
何回もありました。
わたしは、この女
の子を助
けたいと思いましたが、
その子はあ
まり他の子と話した
がらないので、
わたしに何ができる
のかよく分かりま
せんでした。どうし
たらよいかい
のると、ただ、友
達になろうとすれ
ばよいと、せいい
いがささやいてく
ださいました。

わたしは学校の勉強を手伝って



ゆう き だ
勇気を出して！

あげました。そして、天のお父様は
彼女に特別な才能をあたえておられ
て、それを他の人のために使うこと
ができると伝えました。休み時間に
わたしや他の友達と一緒に遊ぼう
とさそったりもしました。2, 3か月
後、彼女にとってわたしは初めての
友達だと教えてくれました。

彼女は、また引っこしをしなけれ
ばならなくなり、わたしは本当に悲
しくてたまりませんでした。わたし

は、学校の事務の人に
お願いして、彼女の新しい住所に手紙を
送ってもらいました。
手紙の中で、わたしは
彼女がいなくてさびし
いこと、いつまでもわ
たしの大切な友達で
あることを伝えました。
二人で一緒に遊んで
いる絵をかくて、彼女
が持っている才能もい
くつか書きました。
「勇気を出して、新しい

友達を作った方がいいよ。そうし
たら、だれかのことを助けてあげら
れるよ」と書きました。新しい学校
で友達を見つけられるように、そし
て、他の子たちが彼女にやさしくし
てくれるようにといのりしました。

わたしは、天のお父様がすべての
子供たちを愛しておられることを
知っています。そして、他の人を助
けられるようわたしたちを助けてく
ださることに感謝しています。■

主がヨルダン川で

(簡易伴奏)

詞と曲：ジーン・P・ローラー

敬虔に ♩ = 88-96

1. しゅ が ヨル ダン が わ で バ ブ テ ス ー
2. わた し も しゅ の よう に しん け ん と み

マ を う け ー た と き に お き た こ と で
ず で バ プ テ ス ー マ を う た け こ ま で

す てん ぶ は か ー たい り せいれい は は と の
す きょう か い に は たい り せい は な る み た

よう に や さ し く お り て こ ら れ ま し た
ま の み さ ち び き を う け せい か つ し ま す

©1977, 1989, 2014 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved.

教会あるいは家庭における一時的また非営利目的の使用に限り、複製することを許可する。複製の際はこの通知部分を含めること。

バプテスマを うけられた イエス

エリン・サンダーソンとジーン・ビンガム

イエスが バプテスマを おうけ
になるところを 見られたら、
どんなだったでしょう。新約聖書には、
その しんせいな 日に いろんな
ことが あったかが 書かれています。

「そのとき イエスは、 がリラヤを
でて ヨルダン川に あらわれ、ヨハ
ネの ところに きて、バプテスマを
うけようと された。……

イエスは バプテスマを うけると
すぐ、水から 上がられた。すると、
見よ、天が ひらけ、かみの みた

まが はとの ように 自分の 上に
下ってくるのを、ごらんになつた。

また 天から 声が あって 言った、
『これは わたしの あいする 子、わ
たしの 心に かなう ものである。』
(マタイ 3:13, 16-17)

バプテスマと かくにんを うける
とくべつな 日に、あなたは イエス・
キリストに したがうことになります。
まるで 新しく 生まれかわった 人の
ように なるのです。いつも イエス・
キリストを おぼえ、イエス・キリストに

したがうと やくそくします。イエスの
教会の かいいんに なり、せいれい
の たまものを うけ、かんぜんに
きよく なります。天の お父さまは
あなたのことを とても よろこんで
られます。バプテスマは、天の お父
さまの もとに 通じる 道の 門を
ひらきます。■

この お話を 書いた 人は アメリカがっ
しゅうこく ユタしゅうに すんでいます



もっと 知る

ヨルダン — ヨルダン川

ヨハネ — バプテスマの ヨハネ

すぐ、水から 上がられた —
かんぜんに 水に しずんでから
すぐに 立ち上がった

かみの みたま — せいれい

はとの ように 下ってくる —
はとの ように しずかに そっ
と 下りてくる

天から(の) 声 — 天の お父さ
まの 声

かぞくで 話し合ひましょう

もう バプテスマを うけた 人に、その とくべつな 日に かんじた 気持ちを 話してもらいましょう。そして、バプテスマの ときに かわした せいやくを どのように まもろうと しているかや、せいいいが どのように みちびきや なぐさめや 教えや けいこくを あたえてくださったかを 話してもらっても よいでしょう。

うた——「主が ヨルダン川で」『リアホナ』2015年2月号、

せいく——マタイ3:13, 16-17; 信仰箇条1:4

ビデオ——Biblevideos.lds.orgで、モルモンチャンネルの「イエスの バプテスマ」が 見られます。

せいくを おぼえるための ヒント

せいくを おぼえるのは、1, 2, 3と 数えるのと 同じくらい かんたんです。

1. せいくを たんごに 分けて、べつべつのカード または 紙に 書いてください。そのカード または 紙を 正しい じゅんばんに ならべて 声に 出して、せいくを 読んでください。
2. カードを ばらばらに まぜて、また じゅんばんに ならべます。せいくを もういちど 読みます。
3. 1まいの カードを 外し、せいくを もういちど 読みます。カードが なくても せいくを ぜんぶ 言えるようになるまで、カードを 外して いきます。

さあ、これで せいくが あんきできました。どこに行くときも、せいくと いっしょに いられますね。



せいくに ついての しつもん

つぎの 紙を 切って、入れものに 入れてください。じゅんばんに しつもんを えらんで、せいくから 答えを みつけてください。

イエスに バプテスマを ほどこしたのは だれですか。(マタイ3:13)

なぜ イエスは バプテスマを うけたいと 思われましたか。(マタイ3:15; 2 ニーファイ31:7, 9)

なぜ わたしたちは バプテスマを うける ひつようが ありますか。(ヨハネ3:5)

イエスが バプテスマを うけられた後 すぐに どんなことが 起こりましたか。(マタイ3:16-17)

みづに しずめるとは、どういう いみですか。(教義と聖約76:51; モーセ6:64-65)

せいいいの たまものは どのように うけますか。(教義と聖約33:15)

バプテスマを うけるとき、わたしたちは どんなことを やくそくしますか。(モーサヤ18:8-13; 教義と聖約20:37)

わたしたちが バプテスマを うけるとき、天の お父さまは どんなことを やくそくして下さっていますか。(教義と聖約76:52-56)

天の お父さまと えいえんに いっしょに くらすために、バプテスマを うけた後、何を しなければ ならないでしょうか。(2 ニーファイ31:18-20)

小さい 小さな みんなのために

お話を ^{はなし}する ジュリアナ

ジェーン・マクブライド・チョート

ほんとうに あった ^{はなし}お話を もとに ^か書かれました。



ジュリアナは ^{しょうとくきょうかい}初等協会で ^{はなし}お話を するのが、ちょっと こわくなりました。
おばあちゃんは、ジュリアナを ぎゅっと だきしめてくれました。そして、「^{てん}天の
^{とう}お父さまは あなたを たすけてくださるわよ」と ささやいてくれました。



ジュリアナは、自分の ^{じぶん} お話の ^{はなし} 番に ^{ばん} なったとき、^{とも} 友だちや ^{せんせい} 先生や
おばあちゃんや おじいちゃんが ^{じぶん} にこにこしながら ^み 自分を ^{はなし} 見てくれて
いるのが ^み 見えました。それから、お話を ^{はなし} しました。



「わたしは ^こ かみの ^こ 子です。
わたしは、イエスさまのことを
べんきょうしたり、おいのりを
したり、かぞくを たすけたり
して、かみさまを あいして
いることを しめしています。
わたしは、^{てん} 天の ^{とう} お父さまと
イエスさまも わたしを ^し あいして
くださっていることを 知ってい
ます。イエス・キリストの ^{みな} みな
によって、アーメン。」



初等協会しょとうきょうかいの後あと、ジュリアナは おばあちゃんを ちから力いっぱい だきしめて、
こいう 言いました。「わたし、こわくなかったわ。天てんのお父とうさまが わたしを
たすけてくださっているって 知しっていたから。」■

かみさまの すべての 子どもたち

どの 子どもも みんな、かみさまの とくべつな
 子どもです。ジュリアナを さがせますか。女の子は
 何人 いますか。男の子は 何人 いますか。しま
 しまの ふくを きているのは、何人ですか。黄色い
 ふくを きているのは、何人ですか。めがねを かけ
 ているのは、何人ですか。





十二使徒定員会
ジョセフ・B・
ワースリン長老
(1917-2008年)

真の愛

わたしたちは愛によって導かれ、
最終的に、栄光と威厳に満ちた永遠の命へと
導かれるのです。

弟子の道は愛に始まり、愛に終わります。愛は慰め、助言、癒やし、安らぎを与えます。死の陰の谷を通り、死のとばりを越えるときにも、わたしたちは愛によって導かれ、最終的に、栄光と威厳に満ちた永遠の命へと導かれるのです。

わたしにとって、預言者ジョセフ・スミスはキリストの純粋な愛を常に身をもって示す模範でした。数多くの人々が彼に従い、離れて行かないのはなぜなのかと、ジョセフはたくさんの人から尋ねられました。彼の答えはこうでした。「わたしに愛の原則があるからです。」¹

ある14歳の少年の話です。彼はノーブーの近くに住む兄を捜しにやって来ました。少年が到着したのは冬で、お金もなく、友人もいませんでした。ある人に兄のことを尋ねると、ホテルのような大きな家に連れて行かれました。そこで一人の男性に会い、次のように言われます。「入りなさい。ここに泊まるといい。」

少年はその言葉に甘えて中に入り、食事をし、体を温め、ベッドで眠ることができました。

翌日は身を切るような寒さでしたが、少年は兄が滞在している町まで



8マイル(約13キロ)の道のりを歩くために支度をしました。

家の主人はその様子を見ると、もうしばらくとどまるように言いました。もうすぐ幌馬車(ほろばしや)が来るから、その幌馬車が帰るときに乗せてもらえばいいと言うのです。

少年は「お金がないですから」と言って辞退しましたが、主人は「心配ない。わたしたちが出してあげるから」と言いました。

後に少年は、この家の主人こそ他ならぬモルモン(モルモン)の預言者、ジョセフ・スミスであったということを知りました。少年は残りの生涯、この慈愛に満ちた行為を忘れませんでした。²

モルモンタパナクル合唱団の「ミュージック・アンド・スポークンワード」で最近、結婚して何十年にもなる老夫婦の話が語られました。妻は少しずつ視力が衰え、これまで長年してきたようには、自分の身の回りのことができなくなりました。夫は妻から頼まれた

わけでもないのに、妻の爪にマニキュアを塗ってあげるようになりました。

「目の前に指先をかざせば妻には爪が見えること、そしてマニキュアが塗ってある自分の爪を見てほほえむことを夫は知っていました。夫は喜ぶ妻を見るのが好きでした。彼は妻が亡くなるまで5年以上もの間、マニキュアを塗り続けました。」³

これはキリストの純粋な愛の一例です。最も偉大な愛は、詩人や作家が不朽の名作で描く劇的な場面には見いだせないことがあります。最も偉大な愛は、わたしたちが人生という旅路で出会う人々に示す、素朴な親切と思ひやりの中に見られることが多いのです。

真の愛は永遠に続きます。それは永遠の忍耐(ゆる)と赦しであり、全てを信じ、望み、堪え忍びます。それは天の御父がわたしたちに対して抱いておられる愛です。■

「いちばん大切な戒め」『リアホナ』2007年11月号、28-29を基に編集

注

1. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第5巻, 498
2. マーク・L・マッコンキー, *Remembering Joseph: Personal Recollections of Those Who Knew the Prophet Joseph Smith* (2003年), 57
3. "Selflessness," 2007年9月23日付, 「ミュージック・アンド・スポークンワード」の放送(英語)は musicandthespokenword.com/spoken-messages で視聴可能

洞 察



他の人々の欠点にばかり目を向けることにはどんな問題があるでしょうか。

「〔ある男性〕は隣人の家の前を歩いていたとき、この美しい芝生の中に大きな黄色いタンポポが１本生えていることに気づきました。……なぜこの隣人はそれを抜かなかったのだろう。目に入らなかったのだろうか。……〔この男性〕はこのたった１本のタンポポがとても気になり、どうにかしたいと思いました。それを抜こうか。除草剤をかけようか。夜暗くなったら内緒で抜き取るかもしれない。彼は自宅に戻りながら、心はすっかりこの思いにとらわれていました。彼は家に入るとき、自宅の前庭に目をやることもしませんでした。ところが前庭は、数多くのタンポポで覆われていたのです。……自分の問題を知るのには苦勞することが多いのに、他の人々の問題をとてもよく分析して解決法を提言できるのはなぜか、わたしには分かりません。」

今月号のその他の記事

ヤングアダルト

フランス領ポリネシア

に見る強靱なパドルと強い証

フランス領ポリネシアに住むこの若い夫婦は、福音に十分に
従って生活するうえで、彼らの大好きなスポーツで成功
するために役立つ原則が非常に有効であることに気づきま
した。



46
ページ

青少年



48
ページ

毎日 神に頼る

毎日主に頼ることがなぜそんなに大切なのか、そしてわた
したちが主への信仰を日々培っていくのを主はどのように助け
てくださるかについて学びましょう。

子ども

あなたの番です

ちょうどオリンピック選手のように、わたしたちは
この地上での時間を「備えるために」使う必要が
あります。



66
ページ

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

JAPANESE



4 02125 62300 1

12562 300